

善隣

No.491 通巻758

2018年（平成30年）5月1日発行（毎月1日発行）

2018

5





◀早稲田大学
大日方純夫先生



◆「近現代史講座」

6月1日でいったん終了

(32頁「協会通信から続く」)

『日本近現代史を読む』

(大日向純夫著・新日本出版社)を教本にして、1年

半にわたり勉強会が続けられてきた。最終日の6月1

日は講座(14:00~16:00)

が終わったあと、16時30分

から大日方純夫先生を囲んで

食事会を計画している。

これまで講座に出席した方

で、この会にも出席を希望

される方は事務局または東北

北委員会の戌亥芳秀委員長

にご連絡を。

9月から、形を変えて近

現代史に関する講座を東北

(藤沼弘一)

委員会が企画する予定。

善 隣 目 次 2018年 5 月号

公開講演会記録

中国展望	
一党大会を終えて	西村哲也 2
EUからの脱退とイギリス憲法	
—1975年の国民投票との比較を中心に	加藤紘捷 7
チンギス・ハーンに関する日本人の誤解	
—日本映画『蒼き狼—地果て海尽きるまで』に対する モンゴルでの評判から考える	小長谷有紀 16
《2970対0》とは、いくらなんでも	田畑光永 25

新刊紹介 想像を膨らまさば絵巻物のような本

『北京を知るための52章』明石書店	
櫻井澄夫・人見豊・森田憲司 編著	朝 浩之 26

中国ウォッチング

編・訳 上松玲子 28

コラム 〈腰折れ文〉九、

渡邊澄子 30

陶々俳壇

馬場由紀子選／戸部 守 31

協会通信・会員だより・同好会だより

32

2018年 5月の行事予定

33

善 隣 第491号 通巻758号

2018 (平成30) 年 5 月 1 日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋 1-5-5

一般社団法人 国際善隣協会

TEL 03 (3573) 3051

FAX 03 (3573) 1783

発行人 矢野一彌

印刷所 (旬)ゆにおんプレス

定価 一部400円 年額4,800円

振替 00120-0-145956

国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345

©禁無断転載

みんなの写真館

32

公開講演会記録

中国展望

―党大会を終えて

時事通信社外信部長 西村哲也



中国共産党の第19回全国代表大会（2017年10月18〜24日）は、党総書記2期目となる習近平国家主席が人事とイデオロギーの両面で「1強」体制を強化する大舞台となった。多くの習氏直系幹部が一斉に昇進し、習派は党指導部の政治局で多数派を占めた。さらに、習氏の名前を冠した指導理念が行動指針として党規約に盛り込まれ、その最高指導者としての威信は大幅に向上した。

しかし、政治局の中核である常務委員会は、習氏の数少ない盟友で、党中央規律検査委書記として「反腐敗闘争」を指揮してきた王岐山氏が高齢のため退任。新メンバーは胡錦濤前国家主席や江沢民元国家主席に重用された人物ばかりで、習氏直系は一人も入らず、政治局常務委

は、習氏が「外様」に囲まれる体制が続くことになった。有力長老の胡氏と江氏は習派の台頭を許しながらも、指導部に対する間接的影響力をしぶとく残したと言える。（注Ⅱこのため、習氏は18年3月の全国人民代表大会Ⅱ全人代、国会に相当Ⅱで、党の役職を退いた王氏を国家副主席に起用する異例の人事を断行した）

■習派、政治局で最大勢力に

北京で開催された第19回党大会は党規約を改正し、中央委員を選出。新中央委員は大会閉幕翌日の10月25日、総会に当たる第1回全体会議（1中全会）で習総書記を再選するとともに、新しい政治局員や政治局常務委員を選んだ。これを受け、11月上旬までに党中央の部長や地方トッ

プの異動が順次行われた。

会社に例えると、総書記は社長、政治局常務委員は代表取締役、政治局員は取締役、中央委員は非取締役の部長などに当たる。中央委員は閣僚級だが、中国の閣僚は事務レベルのトップで、実質的には日本の中央官庁局長ぐらいの地位にある。

日本メディアでは、習氏が1期目の早い段階で1強体制を固めたとの見方があったが、実際には、1期目の政治局は習氏直系が一人もいなかった。しかし、習派は2期目の政治局で25人中11人と、一気に約4割を占めた。新任15人の内10人が習派で、その多くが習氏の地方時代の部下。習氏がかつて党委書記や省長を務めた浙江、福建両省出身の幹部が中心だ。浙江人脈は「之江新軍」と呼ばれる。

■中央・地方の要職独占

習派の新政治局員は、江蘇省党書記の李強氏が上海市党書記、遼寧省党書記の李希氏が広東省党書記に就任。北京市は5月から習氏直系の蔡奇氏が書記を務めている。上海と広東はそれぞれ、経済規模が全国最大の都市と省レベル行政区、北京は首都で、習派はこれらの地方主要3ポストを独占した。

また、同じく新政治局員で習氏直系の陳敏爾氏が7月、重慶市党書記に起用されているので、習派は省・自治区と同格の4直轄市のうち3市のトップを占めたことになる。天津市党委の李鴻忠書記は江沢民元国家主席派ながら、党内で習氏を中央指導部の「核心」と位置付けようとするキャンペーンが展開された時、先頭を切って賛意を示した。

党中央でも、高官人事を管轄する中央組織部の陳希常務副部長、中央宣伝部の黃坤明常務副部長がそれぞれ部長に、党中央の事務を取り仕切る中央弁公庁の丁薛祥常務副主任が主任に昇格。党中央部長級の主要3ポストも習派がすべて抑えた。

習氏の経済ブレーンで、習氏が組長を兼ねる党中央財經指導小組の弁公室主任（事務局長）を務めてきた劉鶴氏も政治

局入りしており、経済政策でこれまで以上に影響力を発揮するとみられる。（注Ⅱ 全人代で副首相に選出された）

1回の党大会で一つの派閥がこれほど大きく勢力を拡大するのは異例だ。02年に導入された68歳定年の内規が維持されるとすれば、生年が1955年以後の李強、陳敏爾の両氏が22年の第20回党大会で政治局常務委入りする可能性がある。

■団派と太子党減る

1期目の習指導部は厳しい反腐敗闘争を展開し、江派が主な標的となって大打撃を受けた。一方、胡氏らの共產主義青年団（共青团）派（団派）は、胡総書記時代に不正疑惑で更迭された令計画・元中央弁公庁主任を除けば、大物は摘発されなかったが、今回の政治局員級人事では勢力は大幅に縮小した。「社長派閥」に譲る形で、早めに引退させられたり、有望視されていた昇進が見送られた高官が目立った。

団派の李源潮国家副主席と劉奇葆・前宣伝部長はまだ現役の年齢であるにもかかわらず、政治局員に再任されなかった。政治局入りするとみられていた國務院（内閣）の楊晶秘書長（官房長官に相当）と最高人民法院の周強院長（最高裁長官

に相当）は政治局員にならなかった。李源潮、楊の両氏は党中央委員にすら選ばれなかった。事実上の失脚とも言える転落ぶりだ。2人は、令元主任との関係が問題になったとの説もある。（注Ⅱ 楊氏はその後、親族の不正を理由に國務院秘書長などを解任され、李源潮氏は全人代で引退した）

また、習氏を典型とする「太子党」（高級幹部子弟）も激減して、習氏以外は、ほぼ皆無となった。劉少奇の息子で、軍の旧総後勤部政治委員だった劉源氏は一時、軍の政治工作責任者として政治局入りするとの説があったが、15年に軍を離れ、事実上引退した。高官ではないが、毛沢東の孫で軍人の毛新宇氏はこれまでと違って、第19回党大会の代表（代議員）に選ばれなかった。

一連の人事は、江沢民・胡錦濤時代に幅を利かせた勢力を抑えつけようという意図が明らか。取って代わるのは当然、之江新軍をはじめとする習派である。

■最高指導部、習氏直系ゼロ

最も重要な政治局常務委人事は、習氏およびナンバー2で団派現役トップの李克強首相が再選され、5人が交代。7人体制が維持された。新任の5人はいずれ

も政治局員からの昇格だ。之江新軍に連なる50代の陳敏爾重慶市党書記が中央委員から「2階級特進」で常務委員入りする、さらに、習氏の後継者に内定するという報道があったが、誤報となった。

陳敏爾氏は重慶市トップになったばかりで、今回政治局入りするのが精一杯という程度のキャリア。これに対し、同世代で団派ホープの胡春華・前広東省党書記は既に政治局員を1期5年務めていたので、常務委員に上がる資格が十分にあった。

このため、習氏が子飼いの陳敏爾氏を政治局常務委員に引き上げれば、胡春華氏も常務委員入りさせねばならない。しかも、キャリアの差から言って、指導者としての序列は胡氏が上位になり、「ポスト習」の地位が固まってしまう。

習氏は他派閥の若手を後継者にはしたくないが、自分の直系を大抜擢して若手筆頭格に据えることもできず、50代を常務委員入りさせる人事を見送ったようだ。その結果、新指導部は明確な後継者候補がおらず、習氏が10年以上の長期政権を目指すかのような布陣になった。(注11 全人代での改憲で、2期10年までとされてきた国家主席の任期制限が撤廃された)指導部人事などをめぐる事前報道の誤

りには、習氏が権力基盤を固める流れを重視するあまり、習氏個人の影響力を過大評価する一方で、習派より歴史がはるかに長い他派閥の人脈や長年の党内ルールを過小評価したという原因があったのではなからうか。

■大半が胡氏・江氏系

新常務委員(序列順、肩書は党大会当時)は、栗戦書(中央弁公庁主任)、汪洋(副首相)、王滬寧(党中央政策研究室主任)、趙樂際(組織部長)、韓正(上海市党書記)の5氏。王滬寧氏は党中央書記局の筆頭書記、趙氏は規律検査委

新旧政治局常務委員

■第18期政治局常務委員

習近平 総書記・国家主席・軍事委主席(習派、太子党)
李克強 首相(団派)
張德江 全人代委員長(江派)
俞正声 政協主席(太子党)
劉雲山 中央書記局筆頭書記(江派)
王岐山 中央規律検査委書記(習派、太子党)
張高麗 筆頭副首相(江派)

■第19期政治局常務委員

習近平 総書記・国家主席・軍事委主席(習派、太子党)
李克強 首相(団派)
栗戦書 中央弁公庁主任→全人代委員長(団派)
汪洋 副首相→政協主席(団派)
王滬寧 中央書記局筆頭書記(江派)
趙樂際 中央規律検査委書記(?)
韓正 上海市党書記→筆頭副首相(江派)
(注) 太子党(高級幹部子弟)は一つの派閥ではない。

書記に就任した。栗氏は全人代常務委員長、汪洋氏は国政諮問機関の人民政治協商会議(政協)主席、韓氏は常務副首相に転じるとみられる。(注12 全人代で実際にそうなった)

5人のうち、栗、汪の両氏は共青团出身で、団派総帥の胡錦濤氏に抜擢された。趙氏は団要職の経験はないが、胡総書記時代に団派並みのスピードで昇進し、胡錦濤氏系といわれてきた。王滬寧、韓の両氏は江派の中核である上海閥出身。韓氏は団幹部の経験もある。いずれも習氏との関係は良好と思われるが、習氏にとっては、今回政治局入りした李強氏のように総書記就任以前から関係の深い「譜代」ではない。

権力闘争で重要な役割を果たす規律検査委書記は、栗氏が起用されると一部で報じられたが、実際には趙氏だった。5人の中で趙氏の派閥色が最も薄いためとみられる。栗氏が就くとみられる全人代委員長は儀礼的ポストで、大きな権限はない。

団出身者は、政治局では大幅に減ったが、上級機関の政治局常務委では逆に増えた。江派は過去5年間の反腐敗で徹底的にたたかれたにもかかわらず、2人が常務委員入り。政治局レベルでも、警察、

中国指導者の年齢

★＝政治局常務委員
☆＝主な政治局員

生年	指導者	生年	指導者
50	★栗戦書	56	☆李希鴻
51		57	★趙樂際
52	☆劉鶴	58	
53	★習近平	59	☆李強
54	★韓正	60	☆陳敏爾
55	★李克強	61	
	★王滬寧	62	☆丁薛祥
	☆李希	63	☆胡春華
	☆李鴻忠		
	☆李鴻忠		
	★趙樂際		

検察などを管轄する党中央政法委書記に江派の郭声琨・前公安相が起用された。

新政治局は習派が大勢力になったものの、胡錦濤氏、江氏に近いとみられるメンバーがそれぞれ7人、6人おり、合わせると、習派より多い。習氏「1強」体制が完成したといえる状態ではないため、習氏は5年後の第20回党大会を待たず、2期目途中の2、3年後に再び指導部人事に手を付けるかもしれない。

■党規約に習氏の「思想」明記

党規約改正の焦点は、習氏の指導理念がどのような形で明記されるかだった。香港誌・亞洲週刊（17年3月19日付）が、第19回党大会で習氏の「治国理政（国を治め、政治を取り仕切る）新思想」が党規約に盛り込まれると報道してから、この問題が注目されるようになった。

さらに、香港紙・明報は同22日、「習

近平思想」が党規約に書き入れられると報道。同じ頃、研究職の中国軍人2人が英国で「習近平思想」と題する書籍の出版記念式典を行った。軍人かシベリアンかにかかわらず、中国当局者が自国の指導者に関する書籍を勝手に出すことは許されないの、同書の出版には軍当局の許可があったはずだ。海外出版で国内の反応を見てみようという習派の意向を受けた動きだったとみられる。

習氏の福建・浙江人脈に連なる蔡氏がトップになった北京市では6月から「習近平総書記重要思想」という表現を公式に繰り返して使って、習近平思想の公式化を後押しした。7月には、ついに党中央組織部の理論誌『党建研究』の論文に習近平思想が登場。公式の提起は初めてだったが、関連ウェブサイトにこの論文は掲載されなかった。習氏を毛沢東と完全に同列に置くことには、党内で反対論が多く、「お蔵入り」になったようだ。

党大会では結局、党規約に行動指針として、「習近平の新時代の中国の特色ある社会主義思想」が盛り込まれた。個人名を冠した指導理念は「毛沢東思想」「鄧小平理論」に続いて三つ目。江氏と胡氏の指導理念はそれぞれ「『三つの代表』重要思想」「科学的発展観」で、個

人名は付いていない。

習氏としては、毛主席と完全に同格の習近平思想という名称の公式化は実現せず、名称に鄧理論の主要概念である「中国の特色ある社会主義」を入れざるを得なかったものの、イデオロギー面で江、胡の両氏を事実上凌駕する地位を確立することはできた。

■「党がすべてを指導する」

習氏「1強」体制強化をめぐるのは、日本や欧米の一部のメディアが党大会前に、35年ぶりの党主席復活説を伝えていたが、実現しなかった。実際には、習近平思想公式化の動きと異なり、党主席制導入の可能性を示す兆候は全くなかった。習近平思想という表現を党規約に明記することすらできなかったのであるから、まして、党の在り方を根本的に変えてしまう党主席制の復活はあり得ないことだった。

党規約改正に関する報道では、習氏の名前を冠した指導理念を盛り込んだことが注目されたが、より重要なのは「共產党の指導」を説明する規定の大きな変更だった。党の指導とは一党独裁を意味し、社会主義体制における中核的概念だ。

党規約はこれまで、経済改革を積極的に進める鄧小平路線を反映して、「党の指

導は主に政治、思想、組織の指導である」と規定していた。一党独裁は堅持するものの、政治体制に直接の関わりがない経済、社会などの活動には、あまり細かく口を挟まないという姿勢が読み取れる。

しかし、今回の改正でこの規定は「党はすべてを指導する」と書き換えられた。毛沢東時代によく使われた言い方で、習近平路線の復古主義的傾向を象徴する改正である。習路線は全般的に統制色が強く、市場経済化より市場管理、民間企業振興より国有企業強化に重点を置いている印象がある。必ずしも反体制、反共産党ではない人権派の弁護士や活動家に対する極端な弾圧やインターネット上の言論規制強化も、その一つの表れだ。

■鄧路線vs習路線

鄧小平文選を読めば分かるように、鄧氏が始めた改革・開放政策は、中国経済を先進国レベルに近づけることを目標とした。具体的指標は一人当たりの国内総生産（GDP）とされた。先進国かどうかの基準はGDP全体の規模でなく、一人当たりの数値なので、当然のことである。

中国の一人当たりGDPは8000ドル台。ブラジルやロシアなどとだいたい同じ水準で、日本のわずか4分の1でし

かない。したがって、鄧路線を進むとすれば、市場経済化による改革をあくまで推進しなければならない。

一方、国有企業の役割拡大、陸海のシルクロード経済圏構想「一带一路」などの経済政策や、大国主義的もしくは拡張主義的な振る舞いから、習氏は「既に中国は十分な経済力を備えている」と考えている節がある。GDP全体の規模が日本を抜き、米国に迫っているのだから、現在の経済体制は基本的に正しく、市場経済化による大きな変化は必要ないという認識なのであろう。（注18年の政府活動報告は前年までと異なり、「市場が資源配置の中で決定的役割を果たす」という改革の基本方針が盛り込まれなかった）

通信社の特派員として、北京に5年余り、香港に7年余り駐在した経験からか、鄧路線は「南方的」、習路線は「北方的」な考えであるように思える。歴史的、相対的に言って、中国本土の雰囲気や考え方は、広東省など南方が開放的、北京市などの北方が保守的といわれる。鄧氏が広東省、特に香港と接する深圳市を改革・開放の起点としたことは、よく知られた話だ。

一方、習氏は中国のトップリーダーとしては珍しい北方出身者で、しかも中国

が極めて閉鎖的だった文化大革命世代に属する。こうした事情が鄧路線と習路線の違いにつながっているのではなからうか。

2年半前に香港から帰国して以来、日本で多い中国超大国論や香港衰退説に違和感を感じているが、現在の日本における一般的な中国論が「北方的」であるせいかもしれない。また、1997年の香港返還後、大半の日本メディアが香港支局を閉鎖し、北京支局（中国総局）を大幅に増員した結果、日本の中国報道が北方偏重になったことが影響している可能性もあるだろう。

（2017年11月16日・公開アジア研究懇話会）

筆者略歴（にしむら てつや）

1962年京都府生まれ。85年東京大学文学部東洋史学科卒、時事通信社入社。大阪支社、外信部、北京特派員（94～97年）、外信部次長、中国総局長（2002～04年）、編集局編集委員兼外信部次長、香港支局長（08～15年）、外信部専任部長を経て、17年4月から現職。著書に『中国政局を読む』胡錦濤から習近平へ』『中国政局を読むⅡ』（習近平の反腐敗闘争）（いずれも時事通信オンデマンドブックレット）。

公開講演会記録

EUからの脱退とイギリス憲法

— 1975年の国民投票との比較を中心に —

日本大学元教授 加藤紘捷（会員）



1. はじめに（目的）

1890年、自由党のグラッドストーン内閣がアイルランドに自治権を与える法案を議会に出そうとした時、憲法学の泰斗ダイシーが、法案成立の前提として国民投票（レファレンダム）を行うべしと提唱した。だが、以来、いかなる国民投票も住民投票（英語では同じくレファレンダム）もこれまで実施されなかった。しかし近時のイギリス憲法の新しい実務的特徴は、地域レベルだけでなく、国レベルでもレファレンダムが活用されることとなり、注目に値する。

地域レベルとしては2014年9月にスコットランドでイギリスからの独立を

問う住民投票が行われたことはまだ記憶に新しい。

国レベルではこれまで3回あった。そのうち、イギリス史上初となる1975年に、ECへ継続して残留するか否かを問う国民投票が行われ、2番目は、2011年、小選挙区制に代えて対案投票制を導入するかどうかを問う国民投票が行われたが、結果として否決され、総選挙は今も小選挙区制のままとなっている。次いで3回目が今回2016年6月に行われたEUへ残留するか離脱するかを問う国民投票だった。

これら3つの国民投票のうち、最初の1975年にウィルソン労働党政権により行われた国民投票と、3つ目の2016年にキャメロン保守党政権によって行

われた国民投票は、ともに首相の残留方針に対して、閣内のEC懷疑派（反欧州派を含む）を抑えきれず、EC懷疑派の反対を公然と許す形で選挙を戦った。前者の国民投票の場合、国民から多数のEC残留の賛成が得られた結果、ウィルソン首相は歴史的な決断をしたと評価された。これに対して、後者のキャメロン首相の場合も、一定の条件の下、EU残留を基本方針に国民投票に臨もうとしたが、EU懷疑派（反欧州派を含む）を抑えることができず、彼らの反対を公然と許す形で国民投票を戦った。だがEU残留を目指した首相の方針に反して国民は離脱の回答を出したため、キャメロン首相は退陣を余儀なくされ、メイ首相が誕生した。

双方とも、憲法上の閣内一致の原則を棚上げしての、異例の国民投票であったが、国民から正反対の回答が出された。その原因、とくに閣内で親欧州派と反欧州派とに分裂した背景と原因はどこにあるか、両者の国民投票を比較検討し、イギリスがEC加盟から欧州とどう向き合い、究極的にEUからの脱退を決めるに至ったのかを考えてみる。

2. 二大政党の衰退とウェストミンスター・モデルの揺らぎ

(1) 投票率、二大政党の得票率の下落

イギリスは君主制国家である。だが、君主の権限は今日、儀礼的な存在でしかない。またイギリスは主権が議会に置かれる議会主権の国である。議会のうち上院は、1911〜49年の議会法により、下院に優位性を譲った。またイギリスは、18世紀に議会が行政部と融合する議院内閣制を採用している。

従って、一人一区の小選挙区制の下、下院で多数を占めた政党が内閣を形成すると、その内閣は、議会主権を背景に、司法をも服従させ、無制約の権力を行使できるとされる。しかし、実際には、憲法のもう一つの基本原理である「法の支

配」が適切に機能することで議会主権とバランスをとり、イギリスの政治が「選挙独裁」と揶揄されないよう政権は謙抑的に行動すべきことは言うまでもない。それを前提にすれば、保守党か労働党のいずれかが下院で多数を占め、内閣を形成すると、議会主権を背景に強力で安定した政治を生み出すという、ウェストミンスター・モデルこそ、イギリスの政治システムの特徴とされるが、今でもそうであるかというといささか疑問にならざるを得ない。

だが、そのようなウェストミンスター・モデルが実際に機能していたのは過去の、1950年代までのこと。投票率を見ると、1951年の総選挙の時、80%台だったのが、2001年の時には、最低の59・2%へ。そして二大政党の合計投票率も、1951年には、96・8%という高い数字だったのに、次第に低下、2010年の総選挙の時には、65・1%、昨年6月の総選挙の時には、62・7%と史上最低を記録した。ウェストミンスター・モデルは今、確実に揺らぎを見せているのである。

(2) ハング・パラメントの出現

加えて、総選挙を行っても、二大政党のいずれも、過半数の議席を取れない

「ハング・パラメント」、すなわち「吊り議会」も昨今、出現するようになってきた。選挙で過半数を取れないということは、保守党であれ、労働党であれ、国民から信頼を得られなくなるということである。これまでハング・パラメントは3回出現した…①1974年2月の総選挙、②2010年の総選挙、そして、③昨年(2017年)6月の総選挙の時の計3回である。以下に③の時のハング・パラメントがどのようにして起きたか見てみる。メイ保守党政権は、周知のごとく、国民投票の結果を受けて、2017年3月29日にEUへ脱退を通告した。だが、イギリスがどのような方針で脱退交渉に臨むのかで、閣内はソフト・ブレグジット、すなわち穏健なEU離脱と、ハード・ブレグジット、つまり、強硬EU離脱派に分裂、メイ首相はリーダーシップを取れないでいた。なぜなら、メイ首相は、首相の座を、キャメロンの辞任に依り得たのであって、選挙で選ばれたのではないからである。

ソフト・ブレグジットは、移民の受け入れを一定程度制約しつつ、単一市場へのアクセスを保持しようという立場。これに対してハード・ブレグジットは、そのような穏健なブレグジットなどEUが

認めるわけがない。強硬ブレグジットで単一市場へのアクセスを失うもやむを得ない。なぜなら、もしEUがソフト・ブレグジットを認めると、他の加盟国にも移民の受け入れに不満を持つ国が多数あり、もしイギリスにそれを認めると、他にもEUを脱退する国が現れないとも限らないからである。メイ首相は政権内で分裂した内閣を盤石にするため、2017年4月18日に、突然解散を宣言した。その上で、EUとの交渉をハード・ブレグジットで行くと国民に訴えた。

しかし、国民感情はこの時、400万の請願を寄せるなど、Brexit (EU脱退) から Bregret (脱退後悔) あるいは Bregrexit に変わっていたとされる。このような時、国民目線より、政権基盤を強化するため、強硬EU離脱派に気遣っての解散に国民は信頼を寄せるわけがない。6月に総選挙が行われたものの、結果はキャメロン前首相から受け継いだ330議席を12議席も減らし、318議席と、過半数の326議席を割ってしまい、ハング・パーラメントをもたらした。やむなく、メイ (首相) は北アイルランドの地域政党 DUP (民主統一党) から閣外協力を得て、10議席を借り、何とか政権を維持できた。だが、過半数を、わず

か2議席超えるだけなので、今後の政権運営が厳しくなるのは必至であろう。このように、どの政党あるいは政権とも、国民から信任を得られないというのが現代のイギリス政治の姿である。

(3) 地域政党とポピュリスト党の躍進

これと反比例して、選挙ごとに議席を伸ばしているのが地域政党とポピュリスト政党である。北アイルランドでは保守党も労働党も、自らの候補者さえ立てられないでいるし、これまで労働党の地盤と言われたスコットランドでは2015年の総選挙でスコットランド民族党が56議席と、議席数を増やしているのに対し、労働党の議席は一つかゼロ議席という始末である。

加えて、EUからの脱退を目的とする、ポピュリスト政党の一つ、イギリス独立党 (UKIP) の存在も見逃せない。同党は、とりわけ欧州議会選挙で議席を伸ばし、2014年5月の欧州議会議員選挙では労働党・保守党を抑え第一党になったことさえある。

(4) 二大政党衰退の原因―1973年のEC加盟を考える

投票率が年々下がり、二大政党の合計

得票率も上述の通り低下するということは、どの政権も国民からの信頼を失ったということであるが、原因はどこにあるのか。調べてみると、分岐点は1970年の総選挙の時。二大政党の合計得票率が89・4%だったのに対し、4年後の1974年2月の選挙の時、それは74・8%へと大きく減らしている。1974年に何が起きたであろうか。その年の前年、1973年1月1日にイギリスが原加盟6か国に遅れて当時の拡大ECに加盟した年に当たるのは周知の通りである。そして、この年がイギリス政治のターニングポイントとなったのである。なぜなら、この年以降今日まで、投票率が低下し、ハング・パーラメントも出現するようになったからである。これが契機となって、イギリス政治は、ECそしてその後のEUをめぐる、党内、議会だけでなく、政権内でも親欧州派と反欧州派とで分裂し、首相は政権運営に困難をきたし始めている。決定的になったのは、さらに翌年、つまり1975年のことだった。その年、当時のウィルソン労働党政権がECに残留するか否かを問うイギリス史上初の国民投票に踏み切った年である。このとき、国民投票を前にして親欧州派と反欧州派で閣内は2つに分裂し、ウィルソン首相

は、閣内一致は困難と判断した。

3. ウィルソン労働党政権と1975年のEC残留可否を問う国民投票

(1) 労働党のマニフェストと加盟条件の再交渉

労働党は当時、予定された1974年2月10日の総選挙を前にして、マニフェストを発表した。その中で、ヒース前保守党政権によるEC加盟条件に異議を呈し、労働党が選挙で勝利すれば、加盟条件を再交渉し、それをもとに、共同市場(Common Market)に留まるか、否かを問う国民投票を行うと発表したのである。それに基づいて1975年国民投票法が制定された。

労働党がマニフェストで提案したECとの再交渉の条件とは、主としてイギリスの支払うEC予算に対する分担金の問題だった。イギリスのEC加盟時に遡ると、当時、EC予算の多くが、共通農業政策、すなわちCAPの下で、農業補助金が使われ、それにより、農業大国と言われるフランスが大きな利益を得る一方、比較的農業人口の少ないイギリスはそれに比べて不利であり、イギリスが払う分担金は負担が大きいと感じられたのである。

ろう。分担金を減らすことが再交渉の焦点となっていた。

しかし国民投票を前にして、ウィルソン内閣内では欧州統合に対する容認派と懐疑派・反対派で意見が対立し、23人の閣僚のうち、7人が反対。その中に、有力な閣僚の一人として、雇用大臣のマイケル・フット、さらには強硬派の代表とされる産業大臣のトニー・ベンらがいたのである。オックスフォード大学のボグダナー前教授によれば、そもそも、イギリスがEC加盟する際、国民からの反対の声も多いいこともあり、前ヒース保守党政権は、国民投票を避けて議会の中だけでEC加盟の論議を行った。しかし、そのことが労働党政権内の親欧州派と反欧州派との間の分裂につながり、ウィルソン首相は国民投票に踏み切って行くが、反対派の急先鋒にいたのがトニー・ベンだった。

(2) 閣内不一致の下、史上初の国民投票へ

かくして、ウィルソン首相は、国民投票時に限り、本来の憲法上の大臣の連帯責任を棚上げし、反対派が自分の立場を公表することを妨げないとの例外措置をとり、1975年6月5日に国民投票を行った。その結果、残留賛成が67・23%、

反対が32・77%という国民から高い賛成票を得て、ウィルソン首相の勝利に終わり、イギリスはEC残留を決めた。

(3) EC残留決定と政権運営へのインパクト

このときの決断は、ウィルソン首相の「歴史的決断」と評価され、その後の政権運営を強固なものにしたとされる。反対キャンペーンに回ったトニー・ベンは「国民がこのように決定を下した今、私はその声におののき、結果をしっかりと受け容れる」と述べた。また後にECの委員会の委員長になった同じ労働党の内務大臣ロイ・ジェンキンズは「この結果はイギリスをヨーロッパに傾倒させ、我々はヨーロッパにおいてアクティブで、建設的でかつ熱狂的な役割を演じるよう、(国民から)委ねられた」と述べた。

これに対して、イギリスが1973年にECに加盟したときは、保守党政権の時だっただけに、4か月前の2月に保守党の党首になったばかりのサッチャーも、先の国民投票の選挙戦で、保守党として「欧州残留イエスキャンペーン」をはった。したがって、イエスが多数で勝利した今、当然ながら彼女は「野党(保守党)の支持がなかったら、イエスの国民の意

思表示はなかったであろう」と述べたことは興味深い。彼女はその後イギリスの最初の女性宰相になり、もともとイギリスがECに加盟したのは保守党政権の時だったため、ECには極めて積極的だったが、1980年代中盤以降、ECがさなる統合に向けて快進撃を遂げ、経済統合から政治統合へ向かわんとするあたりから態度を変えていく。ある意味、今日の保守党の中に巣食う欧州懐疑派と言われる議員たちのルーツを辿れば、1988年に、有名なブルージュ演説で、各国が主権の一部を委譲して作る欧州連邦（ヨーロッパ合衆国）のような枠組みに強く反対することになるサッチャーの国家主義に行きつくことになるであろう。

4. キャメロン保守党政権とEU残留か 離脱かを問う2016年の国民投票

(1) 国民投票の約束とその背景にあるもの

ウィルソン首相の時の国民感情は、第2次世界大戦後の平和と繁栄に浴しようという時代背景をもつ。共同市場への参加は平和と繁栄の礎であり、ECに加盟して直後の1975年の国民投票だったこともあり、EC残留を決めた国民の声

はごく自然の成り行きだったように思われる。しかし、それから41年経ち、欧州統合は深化を遂げ、ECからEUへ、経済統合から政治統合へ向かう中、キャメロン政権が新たにEUへ残留するか離脱するかを問う国民投票を呼びかける場合、国民に1975年とは違う国民感情が芽生えていることを深く考慮に入れなければならないことが違いない。二大政党に対する国民の支持率は落ちていく。これは危険な賭けになりかねない。

しかし、キャメロン首相は、意を決して、2013年1月23日、2年後の2015年5月の総選挙で第一党になったら、EUに改革を求めて新たな決着（new settlement）を図り、その上で、改革されたEUに残留するか離脱するかを求める国民投票を2017年末までに実施したいとの声明を出した。

この声明にどのような背景があったであろうか。2012年10月24日、下院にて保守党のデヴィッド・ナトル議員が、次の会期でイギリスが現在の加盟条件のままでEUに留まるか、離脱するか、国民投票を実施する法案を提出すべしと政府に求める動議が提出された。これを阻止するため、党議拘束をかけたが、それを意に介さず、保守党議員90名が賛成。

保守党のリーダーでもあるキャメロン首相にとってこれは最大の反乱であったとされる。それ以外に15名の棄権もあり、事態は深刻なものと見て、キャメロン首相はこれに対処する必要性に迫られた。

さらに党外のEU懐疑派の最たるものとして、EUからの独立を公約に掲げるイギリス独立党（UKIP）があり、それへの支持が急速に増えていることもあった。2009年の欧州議会議員選挙において、UKIPはイギリスに配分されている欧州議会の73議席のうち、約17%の票を獲得し、当時イギリス与党の労働党を抑えて2位に躍り出た。放っておけば、やがて保守党議員まで総選挙で喰われかねない。これらの背景の下に、キャメロン首相は国民投票を約束せざるを得なかったとされる。

(2) 4項目の改革プランによる加盟条件の再交渉

問題は国民投票をどのように実施するかである。幸い、2015年の総選挙でキャメロン保守党政権は久々に単独過半数を取った。それならば国民投票にも勝って、その後の政権運営で強いリーダーシップを発揮したい。そのためにはキャメロン首相が言うようにEUには改革が必要で

ある。4項目の改革案 (four objectives) をEUに提示して強硬な姿勢を見せ、国民には「改革したEU」に留まるほうがより強く、安全で、豊かになれると訴える、したがってこの改革案でEUから譲歩を引き出すことができれば、キャメロン首相は、「全身全霊で、(with all my heart and soul) 国民を説得できる、そしてイギリスのEU残留を勝ち取ろうとしたのである。かくして2015年国民投票法が制定された。それに基つき、国民投票の日は2016年6月23日と定められた。

キャメロン首相が提示した改革プランは4項目からなる。それは、①イギリスを含む非ユーロ加盟国の権利保護、②イギリスの考える、より競争力のあるEUの構築、③主権保護の問題としてEU基本条約に掲げる「絶えず一層緊密化する連合」の、イギリスへの適用除外、④移民に対するイギリスの福祉の制限、を認める、である。

これらについてイギリスが考える改革プランでEUと再交渉し、その上でEUへ残留するか否かを国民に問うというこの手法は、明らかに、1975年、ウィルソン労働党内閣が国民投票の際にとった手法と同じである。しかも当時も政権内

に公然とそれに反対する大臣がおり、彼らを罷免することなく、いやむしろ閣内一致の憲法上の原則を棚上げしてウィルソン首相は国民投票に臨んで勝利した、この論法をキャメロン首相も使おうとしたことは間違いない。彼もまた、この前例にならって国民投票で勝ち、それにより閣内のEU懐疑派を抑え、その後の政権運営を確実なものにできるはずだと考えた。

(3) 閣内不一致と連帯責任の棚上げ

2015年総選挙後のキャメロン政権内は、国民投票を実施しようとした時点で、おおむね穏健EU懐疑派閣僚と、これに異を唱える強硬EU懐疑派閣僚により構成されていたと言われている。外務大臣のフィリップ・ハモンドや保健大臣ジュレミー・ハントらの多くはキャメロンの改革が整えばEU残留に投票するという閣僚たち。他方、労働・年金大臣のダンカン・スミスや、司法大臣のマイケル・コーヴら6名は強硬懐疑派と考えられている。前者の閣僚への説得は可能だとしても、後者の、EUに対する嫌悪感を募らせて止まない強硬EU懐疑派閣僚に対しては、キャメロン首相は説得を断念せざるをえなかったと思われる。

かくしてキャメロン首相は「EUは多

くの保守党議員にとって深く個人的な問題である。大臣たちにその良心に従う自由を与える」と述べ、さらに国民投票の余波を和らげるのに役立つために、首相は「大臣らが国民投票でいずれかの側に立ってキャンペーンを張るのは自由であり」、同時に彼は、「投票後に引き続き政権を担当するつもりである」と述べた。これも、ウィルソン首相がとった手法と同じであった。

(4) 国民投票の結果とキャメロン首相の退陣

2015年12月17日、2015年国民投票法 (EUレファレンダム法 European Union Referendum Act 2015) が制定され、翌年2016年6月23日に国民投票が行われることとなった。2016年2月18日、19日ブリュッセルで開催される欧州理事会 (EU首脳会議) で、キャメロン首相が前年11月に提案した「EU改革案」が主要議題として取り上げられた。首脳間で同年2月20日にEUからおおむね賛成と同意を受けるに至ったのを受けて、同年6月23日に、イギリスが、引き続きEUの加盟国として残留するか、離脱するかを問う、国民投票が行われた。結果は、キャメロン首相の思惑

とは異なり、国民投票の結果は、残留賛成が48・11%、離脱賛成が51・89%。4%にも届かない僅差だったが、EU残留派 (Remain) の敗北・EU離脱派 (Leave) の勝利で決着した。

政権内の最重要なEU関係の政策が国民投票によって否定されたことを重く見たキャメロンは、「国民は離脱へと投票した」「彼らの意思は尊重されるべきである」「安定した政治が必要で、そのためには新しいリーダーシップが求められる」と、6月24日、首相を辞任することを表明した。キャメロン首相は、政権内の強硬なEU懷疑派閣僚を説得できなかっただけでなく、彼らの主張の方が国民投票を制したのである。辞任を余儀なくされたのもうなづけられよう。

5-1. 改革プランを振り返る― 「移民に対するイギリスの 福祉の制限」について

(1) 東欧からの移民の急増と国民の不満
国民投票の結果は以上の通りであるが、改めてキャメロン首相が国民投票を実施するに当たってEUに提示した4つの改革プランの項目を振り返って見る。4つの改革プランのうち、2つ、とくに、国

民がもっとも関心を抱いていたとする「移民に対するイギリスの福祉の制限」、もう一つ、懷疑派が最もこだわっていたとされる「主権保護の問題としてEU基本条約に掲げる「絶えず一層緊密化する連合」の、イギリスへの適用除外」の二つを検証し、キャメロン首相の提案が敗北した背景の一端を知ろうと思う。

まず、上に掲げた4項目、①から④のうち、最後の④に掲げた「移民に対するイギリスの福祉の制限」を取り上げる。

ここでの「移民」とは同じ加盟国から職を求めて自由移動する労働者とその家族を対象とするが、これらの移民は、経済が比較的好調なイギリスに、毎年約30万人が流入すると言われている。とくに2004年の東欧10か国のEU加盟後、EUから職を求めてイギリスへ移動する移民の数が急速に拡大した。なかでも、2014年の統計で顕著なのは、ポーランドからの移民が最も多く、2004年には7万人弱だったが、2014年現在で、80万人を超えているとされる。受け入れ当初は、イギリス経済がよく、これらの労働力は歓迎された。

しかし、2008年のリーマンショック以降、冷えはじめた経済状況下で、これほど多くの移民を受け入れたことで、

逆に国民から職を奪われる、制限せよと、移民への不満が高まっていたとされる。キャメロン首相によれば、移住者の約40%が年平均6000ポンドの手当てを受給しており、それが国家財政を圧迫し、移民に対するEUの福祉政策には一定の歯止めが必要だと考えた。

(2) 労働者に伴う権利とEU基本条約 の基本原則

しかし、EU基本条約の一つであるEU機能条約第45条1項によれば、「労働力の自由移動は、EU内において確保される」とされ、同条約18条においては「国籍に基づく差別はすべて禁止される」と規定されている。また、労働者であることに伴う権利は、同機能条約第45条2項、3項で仕事に応募する権利、居住する権利、永住する権利として認められるとともに、さらに基本条約に基づく派生的なEU関連立法により、家族に対して、出入国する権利、居住の権利、永住権が認められている。また、EU司法裁判所の判例ではさらに、自由移動した移民とその国の国民とは完全に平等であるべしと解釈されているのである。

それではキャメロン首相の改革プランで要求する移民の受け入れの制限とはどの

ようなものであるか。それは、端的に言えば、EU加盟諸国からの「域内市民がイギリスで在職給付 (in-work benefits) や公営住宅 (social housing) 入居の資格を得るまで4年間、同国に居住し、労働すること」という要求に(庄司克宏論文「イギリス脱退問題とEU改革要求―法制度的考察―」(参照)に過ぎない。キャメロン首相は、これにより急増する移民を制限できるというのだがどうであろうか。

(3) キャメロン首相の考える福祉の制限 確かに、この改革プランは、国家財政の面から、議会のエリート政治家層にはそれなりの効果がある提案であると評価されたかもしれない。しかし、福祉手当を得るため、4年間イギリスに居住し、労働することを条件にしただけの受け入れ制限にすぎないのが、キャメロン首相の提案だったとすれば、多くの国民から失望され、それならば、究極的には、EUから脱退する道しか残されていないと感じられたであろう。

5.2. 改革プランを振り返る―主権保護に関する改革プラン

(1) EU基本条約にいう「絶えず一層緊密化pne連合 (an ever closer union)」 移民の問題とは違い、4つの項目のうち、主権保護の問題として③のEU基本条約に掲げる「絶えず一層緊密化する連合」から適用除外を求める要求は、EU懐疑派がもっともこだわってきた問題と言ってもよい。

(2) 新たな適用除外の要求の真意

もしこれが認められれば、これまで、①国境での入国審査なしで域内を移動できるシェンゲン協定と②単一通貨のユーロといったEUを象徴する2つの適用除外に、もう一つ適用除外が加えられ、イギリスに対してEUからの大盤振る舞いになるはずであった。

イギリスをEU基本条約に規定する「一層緊密化する連合」の例外(適用除外)にせよとする要求は、端的に言う、イギリスがさらなる政治統合のプロセスに巻き込まれたくないという要求と言ってよい。

欧州統合とは、元来、EU基本条約にいう進行形としての「一層緊密化する連合」を意味するであろうが、それはやがて、経済統合から政治統合へ、そしてそ

の果てにヨーロッパ合衆国という連邦国家への目標があるのである。しかし、その場合、イギリスが、経済統合まではよいとして、そこから政治統合へ向かい、さらにはサッチャーが嫌った連邦的枠組みに向かう「一層緊密化する連合」からだけは外れたいというのがイギリスの真意であろう。もしそうだとすれば、キャメロン首相のEUへの要求は、その流れにストップをかけ、国家主義に徹しようとする、まさに強硬EU離脱派の考えに沿う主張といってもよい。

だが、EUは本来、ECとして出発する時点から国家主権を制約することが基本条約の本旨だったはずである。もしキャメロン首相が強硬派を満足させるのが第一義で、国民を納得させるのが第二義的だったとすれば、1975年のウィルソン内閣の時のそれと違う。ウィルソン首相は、ECに再交渉を求め、それによりまずは国民からEC残留を勝ち取って、その上で、政権内の反欧州派閣僚を抑え、その後の政権を抑えるのに成功したのである。その逆では決していない。

キャメロン首相が唱える主権保護の問題はウィルソン首相の時のイギリスが負担する分担金の減額と違って、国民からみて、テーマが重すぎる。と同時に、ボ

グダナー教授も指摘していることだが、ヒース首相が1973年にEC加盟を果たそうとしたとき、国民投票にかけるべきだとの議論が当時あった。にも関わらず、同首相は国民の反対を恐れて議会の中だけで加盟の可否を議論するにとどめて来たのである。その時から、政権は、国民を脇に置き、プロの議会のエリートを中心に欧州とどのように向き合うべきかを論じさせてきた。しかもエリートたちは政権内で親欧州派と欧州懐疑派に分裂し、またブリュッセル官僚主導の政策決定に対する軋轢を国民はたえず見てきた。

確かに、イギリス憲法から見て、こうしたブリュッセル官僚主導の決定について、EUにはどの加盟国の国民に対して、EUの政策の主旨と結果についての説明責任を問ひ糾すシステムが欠如しているのは否めないし、強硬EU懐疑派の不満にそのような指摘が含まれているとすれば、的を得ていると言えるかもしれない。しかしそのブリュッセル主導の政策に適切に対処できず、また強固で安定したリーダーシップをとれずに分裂を繰り返すエリートたちの政治に国民は不信を抱いてきたのである。そう考えれば、ポピュリスト政党が躍進してくるのも、

こうした国民感情を巧みに吸い上げるのに成功した結果だとも言えるのである。

6. 結びにかえて

キャメロン首相は、1975年の国民投票を先例として、EUと再交渉するとの条件に、2016年に国民投票を行ったが、前者の時と違い、EU離脱の結果となった。移民の問題さらには主権保護を含む4つのどの改革プランでも、キャメロン首相は、国民からそっぽをむかれたのである。しかし、2013年、彼が国民投票を行うと声明を述べたブルームバーグ演説のなかで、イギリスは歴史的には欧州に対して常にオープンだったとしながらも、「我が国の地形が、我々の心理を形作っているのは事実だ。我々は島国々民としての性質―すなわち、独立心、率直さ、我が国の主権を守ろうとする上での熱情さ―を持っている。イギリス海峡にそれを放流してしまうより、イギリス人のこの感性をこれ以上変えることはできない」のだと。彼は元を正せば、穏健な欧州懐疑派でもあったのである。その意味言うならば、キャメロン首相が挙行しようとした国民投票の真意とありうる結果をどのようにみていたの

か極めて疑問が残ると言わざるをえない。今回、国民投票で離脱の回答が出された後、400万件以上のオンラインによる請願が出され、政府は2度目の国民投票はないと斥けたが、まだ種々の国民感情が残っているとされる。2016年の国民投票法は、国民投票の結果が出た時、どうするか何の条件も付けずに国民投票を許した。だが、今後は、案件によっては何らかの条件を付したうえで国民投票を検討することも一考であろう。

(2018年2月21日・公開フォーラム)

筆者略歴(かとう ひろかつ)

1943年、中国東北部生まれ。2017年、当協会会員に。駿河台大学名誉教授、早稲田大学大学院法学修士、英国Baker University of Law法学博士、ロンドン大学高等法律研究所客員研究員。駿河台大学法学部教授を経て日本大学法学部教授、比較法学会理事、監事を歴任。現在、日本大学教授を退職後も、同大学大学院で教鞭をとる。

著書『概説イギリス憲法―由来・展開そしてEU法との相克』(第2版、勁草書房)、『EU法入門』(共著、有斐閣)、『英米法序説』(共著、敬文堂)ほか多数。

チンギス・ハーンに関する日本人の誤解

— 日本映画『蒼き狼―地果て海尽きるまで』 に対するモンゴルでの評判から考える

国立民族学博物館教授 小長谷有紀

日本とモンゴルの合作関係

2007年3月、チンギス・ハーンを主人公にした映画『蒼き狼―地果て海尽きるまで』が公開されました。興行成績は芳しくなかったようですが、ご覧になった方も多いのではないのでしょうか。

本映画は、チンギス・ハーンによる建国800周年記念となる2006年（日本におけるモンゴル年）や、日本モンゴル外交関係樹立35周年記念となる2007年（モンゴルにおける日本年）をめざして、日本とモンゴルの合作映画として企画されました。しかし、資金繰りが不調であったところ、角川春樹事務所が資

金調達を請負うこととなり、その後はそれまでの両国関係者の意向が無視されて角川春樹事務所の企画として実現されたそうです。こうした経緯に対して、当初の日本人企画者側が司法に訴えるという事態に至ったものの、結局、角川側が名誉毀損で反訴し、2010年には角川側の主張が認められ、結審しました。

一方、モンゴルでも当初の企画においてチンギス・ハーンを演じることになっていたモンゴル人俳優ソルバラム氏が、企画変更の経緯に対して批判していました。公開後は、映画の内容そのものに対する批判が相次ぎました。

本稿では、モンゴル人の感想やゴシップ紙での批判を切り口にして、なぜ、そ

のような批判が生じたのかを明らかにし、日本人のチンギス・ハーンをめぐる誤解に迫ってみたいと思います。

まず、日本とモンゴルの間でどのような協力関係があったのかを確かめておきましょう。本映画は、モンゴル国で撮影され、その景色はモンゴルそのものです。しかし、モンゴル人俳優としては唯一人アマルサイハンが忠実な部下ゼルメの役を演じているだけで、しかも、日本語で作られた映画であるため、彼の台詞はありません。モンゴル側にもニャムダワーという有名な監督が参画してはいました。本映画のほとんどを占める戦闘場面は、大量の騎馬兵の迫力と技術によって成立しており、それらはすべてモンゴル人エ



キストラによって生み出されています。その意味ではモンゴル人の寄与はきわめて大きいと言えます。また、モンゴル政府からは6億9800万トウグルグ(約7000万円)が拠出されたそうです。本映画の宣伝によれば、総製作費30億円とありますから、これらの告知された金額に基づいて算出すると、モンゴル側からの合作度はさしずめ2・5%であると言えます。

モンゴルでの批判

モンゴルにおける日本語新聞「モンゴル通信」102号(2007年3月10日付)によれば、チンギス・ハーンの母親役(若村麻由美)の演技に対する評価や、戦闘場面の撮影技術などに対して一定の評価が得られています。しかし、モンゴルでは巷での酷評を利用してトーク番組が放映され、また「日本人たちがチンギス・ハーンについてとても酷い、お笑い映画を作った」という記事(エルデバヤブダル紙2007年第5号)にもなっており、実際、映画館から出てきた女性には「ああ、笑えるものを見た」と同行の男性につぶやいていました。

また一部の活動的な人びとは、モンゴ

ルの歴史と文化をゆがめた作品であることを理由に、即刻、世界中での上映を中止し、撮影のために拠出された税金の還付を日本側に求めるという内容の手紙を在モンゴル日本国大使館、モンゴル大統領およびモンゴル首相に対して送った、という声明をテレビで発表し、さらに新聞でも当該意見書が公開されました(フムス紙2007年3月号)。

本映画とほぼ同時期に企画されていた、もう一つのチンギス・ハーン映画については、ロシア人による脚本にモンゴル人が大いに反対し、その撮影がモンゴル国では許可されなかったという経緯もあるため、その映画(浅野忠信主演の『モンゴル』2008年公開)と同様に「偉大な歴史をゆがめる権利は誰にもない」という見出しの記事も見受けられました(ゾーニーメデー紙2007年3月16日)。本映画はチンギス・ハーンを賞賛する意図をもって製作されたにもかかわらず、モンゴル人が違和感どころか、上述のような侮辱や怒りさえ感じるのはなぜなのでしょう。

モンゴル文化に対する無配慮

書籍や脚本のように文字で書かれたも

のなら、書かれていることだけをチェックすればすむけれども、映画の場合、筋とは別に多様な情報が発せられています。

例えば、反町隆史演ずるチンギス・ハーンは腕組みをするのですが、王が玉座に着いているときにするような態度としてはありえない、とモンゴル人は感じるそうです。また、ハーンの位を得て人びとが感涙するという重要な場面で、壇上に座している日本人チンギス・ハーンの衣装は、下から股座が覗いて見えるほど短く、王にふさわしいものではないのとことです。

このように、身体感覚にまつわる微妙な、しかし重大な齟齬があり、モンゴル人の規範に抵触していたのです。

最も致命的な点は馬を見るまなざしの欠如でしょう。テムジン(チンギス・ハーンの幼名)が乗っている馬はおとなしく、太っていて、走らない、老いた馬であることが画面上で遠くからでも目視されるため、モンゴル人の目には「羊の馬」(羊群放牧用の馬)に見えます。すなわち、子どもが放牧の手伝いに出かけてゆく姿として日本人チンギス・ハーンは映ります。さらに、馬たちはどれも首を縦に振ってハエを追いかけているので、と

ても戦闘に出て疲弊している駿馬ではないことが看取されます。馬について詳細な知識をもっている人びとの眼力に適うものではなかったと言えましょう。

日本語の台詞がモンゴル人の笑いを誘う場面もありました。テムジンがボオルチという登場人物を大声で呼びます。ただそれだけなのにモンゴル人観客はクスクスと笑い出しました。なぜでしょうか？この人名はもともと「召使」という意味で、「わが召使君！」とあまりにも明るく親しげに呼んでいるのが、モンゴル人にはお笑いに感じられたようです。『元朝秘史』では、テムジンに一生仕えるように父から指示された人物であるために、この名詞が固有名になっても違和感がないのですが、そうした文化的文脈が日本製の映画では考慮されなかったのです。

また、ハーンの位を正式に得るまでのあいだ、すなわち映画のほとんどの時間、テムジンは身内の人びとから「族長」と呼ばれていました。この「ゾクチョー」という音はモンゴル語では「わがゾークチ（運ぶ人）」すなわちレストランで働くウェイターの職に就いている、親密な人を意味します。チンギス・ハーンが若き頃、食品関連サービス業に従事しているというスクリーン上の事実はモンゴル

人にとってお笑い映画として受け止めざるを得ないのでした。

上映中にモンゴル人たちが笑う意味を一つ一つ分析すると、まさに異文化「誤解」が明らかになります。例えば、本映画では松方弘樹演ずるトオル・ハーンがテムジンからクロテンの毛皮のコートをもらう場面で、松方は大いに喜んで「おお、どこから得た？」と尋ねる場面があります。大仰に喜んで見せる仕草が笑いを誘っているという一面もあったでしょうが、さらに「どこで得た？」という質問は字幕上「どこで買った？」というモンゴル語になって現れると、それはまさしく現在、交換市場で見受けられる一般人の表現であるために笑いの対象となってしまうのです。そもそも、日本人にとって高価そうに見えるクロテンの総毛皮コートは、今でこそモンゴルでも貴重なものですが、テムジンが父の友人であった王にクロテンを貢ぐのは、決して上等なものだからではなく、むしろ苦しかった昔を思い出して欲しいという記号として、です。そのような文化的文脈があることを無視して、脱文脈化されて高級品に驚くという演出がなされているために笑いが生じていたのです。

このように、モンゴル人に見られるこ

とを想定していれば避ける必要があります、現地スタッフと協議しながら避けることができたにちがいない箇所が多々認められる以上、合作と銘打つほどの配慮はなく、むしろ文化的文脈は無視されていたと言ったほうがよいでしょう。

史実に反する点

もともと史実ではなく、歴史に虚構を得た日本人の文芸作品なのだから、史実かどうかという点について争う意味はないという立場もありえます。しかし、こうした立場に立つモンゴル人は少数派で、メディアではむしろ史実を大きく逸脱していると指摘され、それが支配的言説となっていました。

史実に反するという諸批判のなかでも、とりわけモンゴル人の嫌うのは、テムジンにとって幼い頃からのライバルであるジャムカをテムジン自ら首をへし折って殺す場面です。

チンギス・ハーンはそもそも貴族階級であるから、自分で人の首を折ったりはしない、と人びとは言います。『元朝秘史』によれば、ジャムカが死を望むがゆえに、「血を出さず、逝かせて、彼の骨を眼のつくところに棄てるな。よく〔埋

「葬」するようにとな」（村上正二訳）との沙汰を出したと記されています。血を流さない高貴な処刑法については、皮革で巻いて乾燥させる、フェルトで巻いて溺死させるなどの方法があったようです。たしかに、首をへし折る方法も血は出ませんが、自ら手を下すのは明らかに「歴史記述」に反しており、モンゴル人の感覚に反するのでしょうか。

興味深いことに、この場面を人びとは現在、次のように理解しています。テムジンとジャムカは2人いればどちらもハーンにはなれないという勢力均衡状態であったため、ジャムカが盟友のために身を引いてわざと殺されてやったのだ、という解釈です。アンダと呼ばれる「盟友」の約束は、友のために死ぬこともできるという互恵的な平等契約であり、テムジンとジャムカはアンダであったため、ジャムカは自らの意思でテムジンに譲ったのである、と理解されています。ここに「大義のために自ら死を受け入れるもうひとりの英雄」という解釈を認めることができます。こうした英雄に対する彼らなりの理解が本映画では損なわれるがゆえに、酷評が集中したのでした。

それにしても、現代に生きるモンゴル人が、史実の如何を越えて、ジャムカに

「滅びる英雄の美学」を読み取る、という点は興味深く思われます。「チンギス・ハーンのように真のトップには立つことができない、しかし英雄である私」という自己理解がそこに投影されているのではないのでしょうか。さらには、ロシアや中国という大国のはざまにあって、さらに現在ではアメリカまで加わり、その思惑を利用しながら巧みに生きるモンゴル国の人びとの、屈折したプライドが、こうした解釈をゆるぎなくしているのかもしれない。

さらに興味深いことは、モンゴル人にとって、本作に対する疑問が彼ら自身による歴史解釈そのものを促している点です。日本映画をそのまま受け入れるのではなく、本当のことを知ろうという気運が生まれているそうです。だとすれば、モンゴルと日本の合作とは、製作過程における一部関係者の活動というよりもむしろ鑑賞過程において一般人の間で生じていることになります。すなわち、日本人のモンゴル文化に対する不理解あるいは「異文化誤解」があぶりだされると、その「異文化誤解」を契機として、当のモンゴル人自身によって「自文化理解」が改められたらされていく、という相互交渉があるわけです。新たにまたさらされ

た「自文化理解」は、「他者による解釈の再解釈である」という意味で、両国民間の合作は鑑賞過程においてこそ果たされることになるでしょう。

日本文学的モチーフ

本映画における文化的に大きな齟齬は何よりも、チンギス・ハーンという偉大な人物像をめぐって「出生の秘密」というモチーフが用いられている点です。己は何ものであるかというアイデンティティの課題は、心理学がアイデンティティという概念を提供するよりもずっと以前から、人間にとっての根源的な問いであったでしょう。ただし、その根源的な問いは「自分は誰の子か」という、より矮小な問いに転化することもできます。それが「出生の秘密」というモチーフです。『妊娠小説』の指摘する日本近代文学の特徴から、「出生の秘密」というモチーフは「日本文学的」であるとみてよいでしょう。日本人にとっては文学的モチーフであっても、モンゴル人にとっては受容されなかった様子を以下に説明します。本映画は、略奪された女（チンギス・ハーンの母ホエルン）から生まれたために自らの出自を疑いつつ育ったテムジン

が、略奪された女（チンギス・ハーンの妻ボルテ）から生まれたわが子（ジュチ）の出自を否定しつつ育て、苦悩し、その死を悼んで後悔する、という筋書きで、「出生の秘密」というモチーフによって貫かれています。最後の場面では、金朝との戦闘に向かって、チンギス・ハーン自らが放つ最初の一矢が、まさに亡き息子ジュチの象徴として描かれています。

このように本映画は、一貫して「出生の秘密に悩み苦しむ男」の物語（父も子も）であり、それはまた「父と子の確執」でもあります。と同時に、本映画は冒頭で「女はかつて戦利品であった」という趣旨のナレーションが用意され、再三繰り広げられる戦闘について、戦利品として女を得る、あるいは取られた女を奪還することが目的であると設定されていることと整合します。

さらに、女の人権を無視しているがごとき、こうした戦闘をなくすために平和を構築することが、上位レベルの戦闘理由として本映画で提示されてゆきます。日本の戦国大名たちが繰り広げた戦いを天下布武ないし天下統一のためとみなすのと同様です。戦闘の正義化と呼びましよう。チンギス・ハーン自ら、戦闘の理由をそのように思想的に練り上げて正義化

していくことで、地果て海尽きるほど広くユーラシア大陸全体を支配するに至るという筋書きが展開しており、言い換えれば、女を奪う単なる戦いから世界を平和にする正義の戦いへと主人公が成長する筋書きにもなっています。

この映画の原作はタイトルからも明らかとなり、森村誠一の『地果て海尽きるまで―小説チンギス汗』（2000年初刊）です。上述の「出生の秘密」というモチーフを2代にわたって重ねたうえで「父と子の確執」劇にするという筋書きは森村作品に基づいています。ただし、すでに井上靖の『蒼き狼』（1959年初刊）において、こうしたモチーフの2代重ねは提示されていました。その井上作品に対してさらに「エディプスコンプレックス（息子が父を敵視する心理）」という概念を付加して森村作品は成立しています。両作品の微妙な違いについては拙稿（小長谷2008）をご覧ください。いずれにせよ、同モチーフは、例えば松平健がチンギス・ハーンを演じる舞台「ジンギスカン」によって1991年よりたびたび表出されてきましたので、日本人にとっては馴染み深いチンギス・ハーン像でしょう。

しかしながら、同モチーフはそもそも

モンゴルでは文学として成立するとは思われません。なぜなら、「モンゴル人はそんなことにはかまわない、悩んだりしない」「草原に行けば、5人の子の父親は全部ちがうということだって大いにありうる」「そのようなことは女の悩みであって、男の悩みではない」「男でも内心、悩むこともあってよいけれども、チンギス・ハーンとは関係のないことだ」「そんなことに悩むような男はとてもハーンにはなれない」「世間話の題材であり、芸術の題材ではない」などと普通のモンゴル人たちは考えているからです。こうした証言から、実情はともかく、現代モンゴル社会では、生物的父親よりもむしろ社会的父親として責任を引き受けるかどうか、男の価値として問われていることがうかがわれます。

それにしても、出生疑惑に悩む女々しい男の姿と、史上最大の版図をもつ帝国を築いた英雄像とが、日本人にとって違和感なく合致できるのはなぜなのでしょう。

日本では例えば山崎豊子の『華麗なる一族』でも、同じモチーフが展開されています。『華麗なる一族』の場合、主人公の息子がビジネスで失敗して自殺する代わりに、出自の点では問題がなかつ

たことが明らかにされます。つまり、説的に、出生の秘密を抱えて成功するという英雄像はあくまでも温存されるわけです。

こうした英雄像について、フロイトの弟子であったオットー・ランクの『英雄誕生の神話』や同じくフロイトの概念を小説論に展開したマルト・ロベールの『起源の小説と小説の起源』、さらには日本の小説に関して夏目漱石などを論じた三浦雅士の『出生の秘密』などで指摘されているように、文学全体に共通するモチーフであるという側面も見逃せません。ただし、『蒼き狼』（1959）の場合には、折しも日本は高度経済成長期を迎えていましたから、敗戦によってひとたび劣等感をもった日本人が世界に飛躍しようとする時代にみごとに適合した時代的側面もあるでしょう。

古くは、源義経が父の仇である敵将の平清盛によって育てられたこと、だからこそ兄の源頼朝との確執があったことなど、広い意味で「出生の秘密」を持つ男の成功物語、言い換えれば「出生に疑惑を持たれた男の失敗物語」とも軌を一にするかもしれません。

義経と言えば、日本では、明らかに史実ではないにもかかわらず、義経を成吉

思汗と同一視するという歴史的ミステリーが展開されてきました。義経が成吉思汗になったという説については既往の研究があります。森村宗冬の整理によれば、江戸時代において、『本朝通鑑』に義経が生存しているという噂が記録されており、さらには、『金史』別本に大陸へ渡ったと記録されているという話そのものが捏造されました（森村2005）。また宮脇淳子の解説によれば、明治時代になると、世界を制覇したチンギス・ハーンが日本人であると主張する書籍が普及することによって西欧に対して抱いていた劣等感が克服されようとした（宮脇2002: 217-219, Miyawaki 2006）。こうした虚構の展開は、日本が国家的に大陸進出を果たそうとした時代背景と無縁ではなかったでしょう。

「出生の秘密」に悩む英雄像は、日本の近代文学において描かれてきた、自由恋愛と立身出世のはざまで悩むという特徴を増幅した姿であり、許容されやすかったと考えられます。さらに本映画では、近代文学にとって馴染み深い「女をめぐる戦い」のモチーフも造作されています。テムジンが、許婚であるボルテを迎えに来ると、彼女はすでに盟友ジャムカの子になることが決まっ

ていて、2人並んでボルテ自身にいずれかを選ばせるといふ筋が加えられています。この場面によって、2人の英雄は1人の女を争奪する関係と化します。友人間での女性争奪という事情は言うまでもなく、日本の近代文学にとって馴染み深いテーマです。こうして、『元朝秘史』に描かれていた「女の略奪」が本映画では恋愛問題のようになってしまったのでした。

モンゴルにおける「女の略奪」の文脈

もちろん、『元朝秘史』に描かれている「女の略奪」が色恋沙汰でないことは、日本の戦国時代において「戦争」に代えて「婚姻」が集団の連携をもたらしていたことから容易に推察されるでしょう。

モンゴルの場合、戦争による戦利品は、田畑などのように領土ではなく、人畜という集団です。これを争奪することによって、集団が糾合されていきます。したがって、人びとの出自を問うているようでは集団が成長しません。元の出自から次の出自へと接木されていくことによって、糾合による集団統一が果たされていくとみなしてよいでしょう。

ちなみに、『元朝秘史』に記しとどめ

られた神話によれば、蒼き狼の系譜のところへ嫁いだ女性が寡婦になってから光によって妊娠した結果、チンギス・ハーンの祖先であるキヤト一族が始まりますので、チンギス・ハーンの系譜はそもそも「蒼き狼」に「接木」された関係であり、血として繋がっていません。

一方、外婚制（同一集団内では結婚しない）をとるモンゴルの場合、女が移動して所属先を変更することによって、移動前の元集団と移動後の集団とが対等な関係になるという特徴を持っています。

したがって、両集団の絆である女（妻あるいは妻予定者）が略奪されれば、両集団の連携関係は断ち切れかねません。つまり、敵対関係にある集団を孤立させる手法として、敵の背後にあるサポート集団（敵将の妻の実家）との関係を断ち切り、そのサポートを取り込むことが重要な戦略となります。このように、戦争によって糾合される人畜のなかにいる女たちと、戦争の代わりに嫁ぎ、また奪われるというように集団間を移動する女とは、まったく意味が異なっています。

つまり、集団の絆を体现するがゆえに略奪の対象となる女は、集団の部分を構成する女たちとはまったく次元が異なる存在なのです。この点が了解されれば、

第三の女として戦いに自ら参画する女の意味も明確になります。第三の女とは、本映画では、チンギス・ハーンの戦闘目的を女の略奪から平和構築へと昇華させる契機となった女兵士として描かれているクランです。歴史上、彼女はチンギス・ハーンの西方遠征に同行したことで知られています。彼女はチンギス・ハーンのキヤト氏一族とは宿敵の、メルキト氏一族の出身ですが、メルキトは彼女がテムジンと出会う以前に集団として討たれていました。つまり、彼女にはテムジンが連携すべき集団としての実家がなかったのです。実家のない女は略奪される心配はありませんし、戦闘でもし死んでも連携が損なわれる心配さえありません。その意味でたしかに彼女こそは自由人なのでした。

「異文化誤解」の起点

すでにここまで何度も『元朝秘史』に言及してきました。それは、チンギス・ハーンの一代記を中心とする一級の歴史資料であり、漢字で転写されたものしか伝わっていないものの、おそらく13世紀中にまとめられ、当初はモンゴル語だったろうと言われています。日本では、早

くから同史料の研究が進み、すでに20世紀の初頭に歴史学者の那珂通世によって『成吉思汗實録』（1907）として訳出され、また言語学者の小林高四郎により『蒙古の秘史』（1940）として一般に普及しました。すると、文学者でもある柳田泉による『成吉思汗平話 壮年のテムジン』（1942）を皮切りに、幾つもの小説が著されました。

小林は上述書の冒頭で「秘史」の秘について、チンギス・ハーンの幼少期の幾多の艱難辛苦であり、恥部であると解説しました。しかし、私見によればむしろ「秘訣」です。『元朝秘史』が全体を通じて繰り返して述べているのは、チンギス・ハーンに対する忠誠心の具体的なありようです。

例えば、巻5の149節ではニチュグト・バーリン氏のナヤアが投降する場面があります。投降するにあたって、主君を殺すにしのびず、逃がしてから投降していることに対して、チンギス・ハーンは、旧来の主君への忠誠心を賞賛します。同様に、巻6の185節では主君を見捨てることができずに主君を逃し、自ら防戦して戦ったカダクバートルを大いに誉めます。さらに、巻7の188節では王汗の子セングンの僚友ココチュが主君を

裏切るとき、これをいさめた妻を対で登場させたうえで、主君への裏切りをなじた女を誉めたたえ、主君を裏切った男（ココチュ）を斬り捨てさせています。さらに巻8の200節でも、ジャムカを捕らえてきた彼の僚友たちを裏切り者として斬り捨てさせています。

以上のように、自分にとって利益をもたらした者であっても、主君を裏切った人間に対しては信頼できないとして直ちに斬り捨てさせ、逆に、主君への忠誠心をもつ者に対して優遇するのです。このように対となる処遇と処分とが繰り返して表出されていることに注目して、岡田英弘はチンギス・ハーンの人心掌握術であると指摘しています（岡田1986:80）。さらに一歩理解を進めて、カリスマ的リーダーであったチンギス・ハーン亡きあと、諸集団を統合する原理がますます必要になった時点での、新たな倫理規範が提示されている、と見たほうがよいのではないでしょうか。

いずれにせよ、日本では、チンギス・ハーンの幾多の「恥」のなかでもとりわけ長子ジュチが実子でないことが注目されました。ジュチは「客人」という意味ですから、名前がすでにその出自の異質さを正直に表現していて、決して秘密で

はありませんし、恥でもなかったでしょう。しかし、チンギス・ハーン文学の日本における嚆矢ともいうべき柳田作品（1942）は、ボルテが略奪前に妊娠していたと主張し、ジュチは実子であると強弁したために、返って「出生の秘密」が強調されることになりました。それ以降、華僑である陳舜臣の『チンギス・ハーン一族』（1997）以外は、みな「出生の秘密」を扱ってきました。とくに、井上靖の『蒼き狼』（1959）は、略奪を妻ボルテのみならず母ホエルンも経験していたことに着目し、ジュチと同様の出自疑惑をテムジン（チンギス・ハーン）本人にも与え、自己の「蒼き狼」の血を証明するために世界制服をめざしたという筋書きへと大幅に変更しました。こうした筋書きの変更をめぐって、歴史小説は歴史をどれだけ改竄してよいかという論争が生まれたほです。井上はオリジナルな筋書きを強調するために、『元朝秘史』にはないレイプシーンも書き込みました。

このように、「出生の秘密」をめぐる男の悩みというモチーフは日本人の「恥」概念によって『元朝秘史』の翻訳から発見され、井上靖の『蒼き狼』によって「劣等感をもった男の出世話」として流

布し、その後、幾多の作品によって反復され続けてきたのです。反復例の一つとして、「出生の秘密」を潜在的に抱える「父と子の葛藤」（エディプスコンプレックス）のモチーフが提示され、「女の略奪」のモチーフと一体化させるといふ筋書きが森村誠一によって編み出され、角川春樹によって増幅されたのが本映画であると言えるでしょう。

すなわち、本映画では、女、略奪、婚姻、戦争といったキーワードを用いて、モンゴル文化の文脈とはまったく異なる物語が表出されたのです。

「愛する女のために戦う男たち」というわかりやすい理解のもとで「女の略奪」というモチーフが使われており、「女の略奪」を目的に、あるいはその復讐として、さらにはそれをやめるといふ大義名分を掲げて、そしていずれにせよ結局は「女の略奪」だけを動機として、ただしそれはそもそも「出生の秘密」を潜在的に抱える「父と子の葛藤」の代替として、劣等感を克服するためにひたすら戦闘を展開するという筋立てが本映画に結晶化しています。その意味では、本映画のテーマを担っているもう1人の主人公は、子であり、最後の場面で「矢」となってしまうジュチです。モンゴル人の中には

「ジュチ伝説」と改名するなら本映画は許される、という意見もあるほどです。

ただし、ジュチに関する日本人の理解が正しいわけでもありません。本映画のみならず、日本人によるチンギス・ハーン物語では、長男ジュチの出自を疑っているために最も遠方に配置するというある種の排除として理解されています。が、遠方の繁栄した土地に派されることは、現代で言えばさしずめアメリカ留学のような措置であり、心理的に疎外されているどころか、むしろ父から信頼されていたのです。移動を是とする遊牧民の文化的文脈とはまったく異なる、日本人向けのチンギス・ハーン物語が日本で1959年に創作され、以来半世紀あまり伝承されてきたのでした。

以上のように、「出生の秘密」を抱える男の出世物語という解説が妥当である本映画は、世界的屈指の民族英雄が女や息子のかまけていっているというテーマ設定そのものとして、モンゴル人としては認めがたい、理解しがたいということになります。

他者の歴史や文化を題材として描かれた文学や映画において「異文化誤解」が明確になることは、無意識の偏見を発見し、新たな関係を築くうえで、非常に重

要なステップであると私は思います。その意味で、本稿で取り上げた諸作品はいずれも貴重な労作として敬すべきであることを最後に申し添えます。

注 本稿は、2017年12月9日国際善隣協会ビルで行った東洋文化研究会における筆者の講演の一部を、主として拙稿「日本映画『蒼き狼』に対するモンゴルでの評判」(『文化の往還』ニュースレター2)を改稿してまとめたものです。

主な参考文献 (著者のあいうえお順)

- 井上靖 1959 『蒼き狼』新潮社
岡田英弘 1986 『チンギス・ハーン』将に将たるの戦略』集英社
小長谷有紀 2008 「現代日本文学におけるチンギス・ハーンの利用」『人間文化(滋賀県立大学人間文化学部紀要)』24: 87-98
小林高四郎 1940 『蒙古の秘史』生活社
斎藤美奈子 1994 『妊娠小説』筑摩書房
那珂通世 (訳注) 1907 『成吉思汗實録』大日本図書
三浦雅士 2005 『出生の秘密』講談社
宮脇淳子 2002 『モンゴルの歴史』刀水書房
Miyawaki, J. 2006 "The Japanese origin of the Chinggis Khan legends", *Inner Asia, Mongolia & Inner Asia Unit*, University of Cambridge, Volume 8, Number 1, 2006, pp.123-134.
森村誠一 2000 『地果て海尽きるまで』小説チ

ンギス汗』角川書店

森村宗冬 2005 『義経伝説と日本人』平凡社

柳田泉 1942 『成吉思汗平話 壮年のテムジン』大観堂

大観堂

オットー・ランク (野田倬訳) 1986 『英雄誕生の神話』人文書院

マルト・ロベール (岩崎力ほか訳) 1975 『起源の小説と小説の起源』河出書房新社

源の小説と小説の起源』河出書房新社

筆者略歴 (こながや ゆき)

国立民族学博物館教授。

1957年大阪府生まれ。1979年、京都大学文学部在学中に日本人女性として初めてモンゴル(当時、人民共和國)に留学し、以来、遊牧文化研究に従事。2007年、モンゴル国より友好勲章を受章。2013年、紫綬褒章を受章。

『モンゴル草原の生活世界』(朝日選書)、『モンゴルの二十世紀—社会主義を生きた人びとの証言』(中公叢書)など著書、論文多数。また、2011年梅棹忠夫没後の展示「ウメサオタダオ展」の実行委員長を務めて以降、梅棹忠夫に関する編著も多数あり。

《2970対0》とは、いくらなんでも

田畑光永（会員）

3月3日の政治協商会議の全体会議開会から始まって、20日の全国人民代表大会（全人代）の閉会まで、18日間という例年より長丁場となった中国の春の政治シーズンが終わった。

昨秋の共産党大会では、「習近平一強体制」が強化されたことは間違いない。が、同時に盟友の王岐山が「68歳以上は引退」という不文律に従って要職に就かなかったから、さすがの習近平も引退時期だけは守って総書記2期目が終わる2022年以降まで居座るつもりはないのだろう、と思わせた。

ところが、今度の全人代の直前、にわかに憲法改正という話になった。それも国家主席の任期をなくしてしまうという、どう見ても習近平1人のための、正面突破作戦であった。

しかもその理由がふるって

る。党総書記、（党・国家の）中央軍事委員会主席、国家主席の3つのポストは「三位一体」（こんなキリスト教の言葉を使っている）であり、このうち国家主席だけに任期があるのは不合理だ、というのである。党の総書記や軍事委主席といった1人だけのポストに任期がないのがおかしいのに、国家主席までそれに合わせるというのは話が逆である。

ともかく、今回の憲法改正で習近平が「冗談でなく、終身、トップを続けようと考えていることがはっきりした。昨秋の党大会以来もやもやしていた霧だけは晴れた。

ところがそれに追い打ちがきた。それがこの小文のタイトルである。

3月17日、全人代全体会議で行われた国家主席選挙の投票結

果である。この選挙の候補者は習近平1人、いわば信任投票だから、圧倒的な得票には驚かないが、それにしても反対も棄権もゼロというのには驚かされる。同時に副主席選挙も行われ、こちらの候補者は昨秋で引退したはずの王岐山であった。だまし討ちみたいだが、その王岐山に對しては反対票が1票だけ投じられた。

このことは何を意味するか。政策の是非でなく、役職者を選ぶ無記名投票で3000に近い票に反対が1票もないというのはまるで奇跡としか思えない。これにはタネがあるはずだ。

じつは昨秋の共産党大会に習近平はなぜか貴州省で大会代表の資格を得たのだが、その時も満票で代表に当選した。そして今度の全人代ではなぜか内蒙古自治区で代表の資格を得たが、

その時も反対ゼロであった。つまり習近平には1票たりとも反対票は投じられないことになったようなのである。

中国のこういう選挙は候補者名が書かれた投票用紙に賛否を記入して投票するのだが、これらの例ではっきりしたのは、それがどういう投票したかを、集計する側は全部分かる仕組みになっていて、しかも、投票するほうもその仕組みを知っていて、反対票は入れられなかったということだ。そうでなければ、こんな奇跡は続けて起きない。王岐山に反対票を入れたのは王岐山自身ではないかと私は推測している。談合の上、わざと習近平と1票差をつけるために。

それにして選挙とは賛否の比率を明らかにするためのものがある。そして多数の側は少数意見を尊重することが前提である。しかし反対票0の選挙とは、反対者を押しつぶすためのものとしか言いようがない。こういう政治では、なにか恐ろしいことが起こる予感がある。

新刊紹介

想像を膨らまさば絵巻物のような本

『北京を知るための52章』

櫻井澄夫・人見豊・森田憲司 編著

明石書店
2160円(税込)

浩之
(会員) 朝

国名または地域名や都市名を
書名に含む「エリア・スタディー
ズ」というシリーズが明石書店
から刊行されている。中国関係
も多数ラインアップされており、
ここ2年内に刊行されたものと
しては『現代中国を知るための
44章(第5版)』(藤野彰・曾根

康雄 編著、2016年12月)、
『台湾を知るための60章』(赤松
美和子・若松大祐 編著、20
16年8月)が挙げられる。こ
の両書を比較しながら読むと、
中国と台湾の国際的立ち位置の
違いを容易につかむことができ
る。いずれも刊行後早い時期に

増刷になっているようだ。

その他、『香港を知るための
60章』(吉川雅之・倉田徹 編著、
2016年3月)、『内モンゴル
を知るための60章』(ボルジギ
ン・ブレンサイン 編著/赤坂
恒明 編集協力、2016年3
月)、『中国のムスリムを知るた
めの60章』(中国ムスリム研究
会 編、2012年8月)、『現
代台湾を知るための60章(第2
版)』(亞洲奈みづほ 著、20
12年1月)、『中国の歴史を知
るための60章』(並木頼寿・杉
山文彦 編著、2011年1月)
なども版元公式サイトを見ると
入手できるとなっている。

本稿では中国関係の中の最新
刊『北京を知るための52章』を
紹介したい。

クレジットカード会社に勤務
し10年にわたって北京に駐在し

た櫻井澄夫。ミュージシャン、
ザ・タイガースのドラマー、人
見豊。東洋史専攻、奈良大学名
誉教授の森田憲司。以上、異色
の組み合わせといえる3名を編
者に据える。編者も含め、大学
報道、民間企業、公的機関、料
理店、京劇などに携わる多彩な
30名の執筆者が、写真・図版
150点近くを添えて物語る。
という、果たしてどのような
書なのかといふかることにもな
らうが、ここは編者に語っても
らおう。「本書は単なる寄せ集
めのアンソロジーではなく、北
京や中国との編者や執筆者の深
い関わりや、本書の作成のため
に集まった集団としての執筆者
や支援者の皆さんとの長期にわ
たる親密な関係があつてこそ実
現した著作物である」(あとが
き)という自信作なのである。
それではと、本書の面白さの
一端に触れてみよう。まず全体
的な印象を記すことにする。に
おいてあふれる本だと感じた。
ときに料理のにおい、ときに無
機物である建造物、本のおい



までといういろいろだが、根本をたどればすべて暮らしのにおい、人のにおいであり、北京のにおいに帰着する。旅行者としてではなく、北京に居ついた、居ついたかのようにふるまえる、個性豊かな人たちを介しての北京、北京の人々のおいである。本書の面白さはそうした個性ある執筆者を組織し、しかも統一感をもった一書をなしたということによるのだと思う。

もう一つ。多くの文に、広い意味で書誌学を想起させるような叙述が組み込まれている。この点も面白さという点で見逃したい。日常的に見える現在の北京に言及するのはもちろん、日常的には見えない過去の北京をたぐり寄せようと古い時代の文献を丹念に渉猟しているのだ。古き時代の北京を訪ねた当時の日本人が、北京をどのように見たのかを知ることが、現代を生きる私たちの北京への関心をふくらませてくれる。

コラムの「明治の北京紀行を読む」や「古写真について」に

は、国立国会図書館デジタルコレクションなどのアーカイブが紹介されている。アーカイブにアクセスすれば、居ながらにして、パソコン画面で戦前期の写真を見たり本を読んだりできるのである。古人の訪中記を読んでも面白がる読者は少ないかもしれないが、古地図を見たり、観光名所の古写真と現況を比較対照できたりすることには、多少とも北京を知る読者であれば興味津々となるはずだ。本にして本ならず、写真・図版が多数の本と、さらにパソコンが一体となつて、絵巻物のように楽しめる。筆者が紹介文を書き出すのにずいぶんと時間を要したのも、本来の読書と離れて、本を読みながら、かつパソコン画面を見ながら読み進めたためだ。

書誌学と言いだしたので小難しくなったように思われるかもしれないが、そんなことはない。要は先人の遺産を理解した上で語り口が、読ませる文になっているということである。これは故宮とその歴史を語る「明代

の北京城」「紫禁城」「天安門クロニクル」「北京の環状鉄路と地下鉄」の章が、4人の執筆者それぞれ異なる立場から語っているにもかかわらず、奇しくも多角的な視点をもって故宮を解き明かすことに結実していることも表れている。

「V食文化」の各章は史蹟また博物館を語る章とともに旅行ガイド的な色彩が強くなるところだが、そうはならず、却って本書らしさを浮かび上がらせている。旅行ガイドであれば誰もが受け容れやすい記述に徹しがちになるが、そんなことはお構いなし。料理に至っては各人各様の主張がぶつかり合ったりもする。一見すると、「迷」(ファン)となった北京について好き放題に語っているだけのように見えるが、各人の語り口が一书としての完成度を押し上げている。見事な「編」書だと思う。

日中関係は経済的・政治的には改善の兆しは見えつつあるのかもしれない。しかしながら、世の反中・嫌中感はまだ解消し

たとは言えない状況にある。経済的な地位の逆転、それと相俟つてのナショナリズムの高まりが起因するのであろう。しかし立ち止まってみようではないか。隣家とは好き嫌いは別にして関係をもたなければならぬし、願わくは良好な関係を目指すことに異論は出ようもない。であれば、隣国である中国とも良好な関係を保たなければならぬ。聴く耳もたず、相手を知ることに関心を失うことが恐ろしい。だからこそ、「北京に対する日本人を中心にした執筆者の『愛市無罪』『良心の書』(あとがき)」が多くの読者を得ることを願ってやまない。

本書の出自については「まえがき」に詳しいが、「あとがき」に私の名が挙がっているのは、その出自の頃、本書の企画に惹かれて編集者として関わろうとしたことによる。私が責任を負うべき事情によって投げ出してしまったので忸怩たる思いにあるが、刊行が実現し、紹介する機会を得たことを喜んでいる。



編・訳 上松玲子

増える家庭内暴力

夫に生活費として毎月5000元しか渡さなかったら、これも家庭内暴力になることは意外と知られていないようだ。

2015年から2017年、杭州市都市部では家庭内暴力の通報件数が増える傾向にあり、特に2016年は前年比75%の増加で、都市部と郊外の間地域はその他の地域に比べ多いということが、杭州市合歓心理相談センターの調べでわかった。また暴力、暴言、性暴力など

の認知度に比べ、経済的抑制、行動抑制、無視無関心などについては認知度が低く、被害にあっているてもその認識がない人が多いこともわかった。

家庭内暴力の被害については、公安、婦女連合会、民生局、各自治体などで通報を受け付けている。ところが通報者の90%が通報後の立件や保護を受けることに消極的である。加害者である夫はもちろん、子どもの仕事に悪影響があるのではと恐れて警察沙汰を嫌がる人もいる。家の恥を晒したくない、家族のために耐えればいいという人が7割以上という。

〔錢江晩報〕2018年3月1日

親心の重圧を逃れて

北京の会社員28歳の劉さんは春節に実家に帰らず、チベットで過ごすことにした。

昨年末、弟夫婦の出産祝いに河南省の実家に帰省した。翌日父母が口喧嘩を始めた。原因は劉さんに恋人がいないことだ。弟も妹も法定結婚年齢を過ぎて

まもなく、春節に婚約して結婚し、子どももいる。一家の関心事は行き遅れた姉の行く末だ。小さい頃から優秀で有名大学、大学院に進み、北京に就職した。ここまでは父母の自慢の娘だったが、いまや頭痛の種だ。春節に帰省すると父はあちこちに電話し、母は近所をまわり、雑談のふりをしながら適齢期の男性はいないか訊ねる。実家で肩身の狭い想いをするくらいなら、とラサに逃げてきたのだ。

同行する2人は29歳と28歳の姉妹で、2人の実家の鎮では春節に集会所で販売会の名目で親たちが集まり、独身の情報交換をするのだそう。今まで何かと理由をつけて縁談を断ってきたが、そろそろ高望みをやめると酔った父親に言われたという。2人のラサ行は当然両親の大反対に遭ったが2人は断固として決行した。

大晦日の午後、一行3人は列車で38時間かけラサに到着、現地で合流したのはインターネット得知り合った同じ目的でラサ

にやってきた9名の男女だ。楊さんはその1人。1991年生まれの一人息子。実家では両親が春節の帰省に備え、花嫁候補を何人も集め待っているのを振り切ってやってきた。

一行はエベレストのベースキャンプを目指すことになっていたが、劉さんは高山病がひどく、1人ラサに残ることになった。仲間が頻繁に写真や動画を送ってくる。数日後ベースキャンプに着いた彼らは意外な光景を目にするようになる。ある男性が指輪を手で女性にプロポーズする姿が動画で送られてきた。

「世界の屋根にまで来ても、この現実から逃れられないのね」と返信した。ラサに戻る途中一行は来年も集まろうということ得意気投合したようだ。さらに、いくつかのカップルも誕生したらしい。道中お互いの理解も深まったし、高山反応で苦しむ女性を優しく介抱した男性もいた。数日後劉さんは北京に戻った。旅行の目的は達せなかったが、いろいろな意味で気持ちが定まっ

た。改めて自分の結婚相手は自分で決めよう、ただ親とはもっと話合わなければ、と思う劉さんだった。

『北京青年報』2018年3月1日

杭州市晩婚化進む

浙江省杭州市で2017年結婚登記を行った男性の平均年齢は33・1歳、女性は31歳で前年に比べ1・3歳高くなった。初婚の平均年齢は男性が28・6歳、女性が27・1歳と前年に比べ男性が0・1歳、女性が0・4歳高くなったと、3月6日杭州市民政局が発表した。

2014年の平均結婚年齢は男性が30・5歳、女性が28・3歳、2015年は男性が31・6歳、女性が29・5歳、2016年は男性が31・8歳、女性が29・7歳だった。2014年の初婚年齢は男性が27・99歳、女性は26・11歳であった。

2017年の結婚登記件数は6万5633組で前年比3・8%増加、同時に離婚件数も前年比17・6%増の2万4740件、

復縁婚姻件数も21・9%増加の5661件と過去4年で最高の伸び率となっている。

『澎湃新聞』2018年3月7日

SNSが繋ぐ家族の絆

中国青年社会調査センターが2005名に対して実施したアンケート調査によると、93・8%が家族でグループチャットを利用してると回答。さらに65・6%がその利用度が高いと答え、66・7%が家族グループチャットは世代間交流に役立っているという。

回答者の年齢構成は2000年以降生まれが1%、90年代生まれが29・7%、80年代生まれが50・5%、70年代生まれが14・5%、60年代生まれが4%だ。

北京の大学院生、徐さんは2つの家族グループを持っている。一つは大家族、もう一つはいとこのグループだ。家族チャットの名称は「仲良し一家」から最近「徐府記」に変えた。

上海で金融関係の仕事をする龐さんも親戚一族のグループと

両親と自分のみのグループチャットで家族と連絡をとったり、実家や地元の様々なニュースを受け取りたりしているそうだ。

調査で家族チャットの役割や用途を尋ねたところ、家族間の話し合いが60・4%、近況の把握が59・7%、健康や安全に関する情報交換が39・4%、ご祝儀の受け取りが38・7%、時事ニュースの転送が38%、「いいね」の要請が11%であった。家族チャットの中で不愉快な内容は何かという質問には、回答の多い順に嘘のニュース、成績や仕事の状況を尋ねるもの、投票や「いいね」を求めるもの、結婚や子どもの催促などであった。

『中国青年報』2018年3月8日

飛行機搭乗を制限

5月1日から、空港や機内で違法行為を行った者、偽の身分証や他人の身分証で飛行機に搭乗しようとした者、搭乗手続きや安全検査場、搭乗口などで、占拠や妨害、攻撃などを行った者、機内に持ち込みを禁止され

ている物品を持ち込んだ者、航空機の運航を妨害した者、座席や荷物置き場の占拠、けんか、故意の破壊行為、迷惑行為、機内での火気の使用、喫煙、電子機器の使用をした者、機内で窃盗をした者などは、一定期間航空機の搭乗を制限されることになる。これは国家発展改革委員会と民航局など共同で発表した《意見》によるものだ。制限期間は1年となる見込みだ。

このほか、税法上の違反者や財政資金の違法管理に関わった者、国際金融組織や外国政府によって信用のない人物と特定された者についても同様である。

これに先立ち2016年から《民航旅客不文明行為記録管理方法》によって迷惑行為をした者、コックピットに侵入した者、非常脱出口を開けようとした者については記録を1年から2年残すという措置がとられたが、現在までそれらの者たちに搭乗を禁じる公告は出されていない。

『羊城晚報』2018年3月21日

コラム

「腰折れ文」 九、

渡邊澄子（会員）

大事な問題が多すぎて選択に迷う。しかも心躍る楽しい話題など皆無に等しく、血圧があがるほど怒りの種ばかりだ。世界的名医の健康診断を受けていて、

認知症の心配なしのお墨付きを得て安心していたが血圧の急上昇で脳溢血死しそうだ。

まず小さい問題（決して小さくはない）から。区立なので公立の泰明小学校が一式八万円以上もするイタリアの高級ブランド「アルマーニ」製の制服導入を決めたという。小学生時代は成長が著しい。六年生まで何度か買い換えなければならないだろう。貧乏人は入学すんなんてことか、在学中の貧乏人は買い換え出来なければ出て行って事か、私立でもないのに、などの

怒りの声が寄せられたらしいが、校長は変えるつもりはないという。教育の機会均等を保障した二六条の責務違反ではないか。

政府もだ。生活保護世帯の子どもは高卒後は働くことを原則にしている。困窮家庭の子の七割が塾や習い事、携帯などを断念させられているという調査があり、睡眠・食費を削ってアルバイトし、大学に進んだらその世帯への保護費は減額されるという。生活保護世帯の消費水準を保護を受けていない（受けなためにどれほどの苦難を強いられるか）所得最下層の人たちより低くする制度に決めたという。決めた張本人はその額でせめて三か月でも生活してみればいい。抑えがたい勉強意欲

から大学に進み、バイトと奨学金で卒業して就職したが三十八歳でがん死した息子の奨学金返済残額と利息の一二三万円に死後の延滞金一四二万円を加算した額の支払いを息子死後八年に請求され、年金暮らしで貯金のない親が毎月二万円振り込んで返しているという話を聞いた。この種の例は枚挙に暇がないらしい。何と言う残酷さ。

大飯原発を抱える町の幹部職員二十人の二泊三日の青森県内の原子力施設研修を公費と関電が負担、日当まで出ているが半分は観光だ。経済産業省は広報・調査費名目の今年の交付金は八億三千万円という。福島被害者が七万五千人もいるというのに、ブラックボックスの内閣官房機密費の膨大さ、五兆一九一億円と過去最大の防衛費。巨額の借金を国民におしつけて困窮者の保護費は減額しながらバラ撒きで感謝されて悦に入る画面の安倍氏を睨んでも無力。今年一

月、都心でミサイル想定避難訓練が行われた。そんな必要はないのに。恐怖を煽って防衛費激増、自衛隊の軍隊として固定化への世論作りのためが見え見えだ。血圧が上がる。

米軍ヘリ他による沖縄（に限らず）への事故やトラブル頻発は六〇年に協定された日米地位協定が悲惨な状況を生み出す元兇だ。政府は廃棄・改訂すべきだろう。

「前川前次官の授業 報告要求」には震えた。自民党議員が調査を要請したというが、いわば正義の士とも言える氏の中学校での講演の詳細報告命令に、日本近代文学研究者の私は戦時下の治安維持法が咄嗟に思い起こされ、共謀罪にマッチした「事件」に鳥肌がたった。この国の行く手が怖い。森友問題の帰趨を見守りたい。

陶々俳壇

兼題「杉の花」「酒」
席題「初花・初桜」

- 遠き日の別れの酒や梅薫る 岡和水
○潮騒や馬のたてがみ風光る(善一) 〃
碧眼の杉花ニユース見詰めをり 鈴木南山
雛の夜や洋酒で祝ふ若夫婦 〃
花見酒うかれてしまふ八十路かな 上野京
風光る平昌五輪金メダル 〃
☆○垣結はぬ里の館や梅薫る 大内善一
杉の花柚の温泉に身を浮かせ(京) 〃
のどけしやニコライ堂の鐘の音(まもる) 〃
○春列車佇ちて本読む女子高生 戸部まもる
○初桜並木のはての転居先(由紀子) 〃
老いはての湯豆腐杯を重ねけり 佐藤若杉
杉花粉マスクは要らぬむかし人(宏太) 〃
いささかの酒につこり雛まつり 長野宏太
初桜妻よことしはどこへ行く 〃
草庵の自動ドアより梅香る 橋本紅杓
川面にしだれてをりぬ初桜 〃
これよりは泣きたくもなし杉の花(紅杓)
水走る草の若葉を光らせつ 馬場由紀子
〃 〃

☆最高点 ○由紀子選 (一) 各特選

選後評

馬場由紀子

囀を道づれにして森の径

和水

春の訪れに心を弾ませて森を散策している。囀や東風に吹かるる木々の葉が、よりいっそう春を迎える喜びを告げる。森の目覚めと冬を越した作者の力強い生命が同調しているかのようだ。

初めての孫の手料理雛の酒

まもる

お雛様だからとお孫さんのおもてなし。お酒も用意されていたのでしょう。孫の成長が嬉しくて、初めての手料理といえど、美味くないわけがない。孫の句は敬遠されがただが、この句には新しさを感ずる。

啓蟄やさ庭に更に狭き土

宏太

今日は啓蟄と聞いて、作者は庭を見た。都会住まいに、はて、啓蟄の兆しは窺われるのだろうか。土に恵みを与えているということ、今年の春はまだまだ先のこともしれない。

鎮もれる古墳の際に初桜

善一

宮崎の西都原古墳群のこと。宮崎と関係の深い作者は、一年を通してよく宮崎を旅行されている。この時季は、古墳群一面を菜の花が覆い、その際を桜が縁取っているのだそうだ。

杉の花あちらこちらに花粉症

京

どうして、若い人は花粉症になるのでしょうか、と真顔でおっしゃる。作者ご自身には全くアレルギーはないそうだ。八十年代の今を精力的に生きていらっしゃる、頼もしい一言であった。

あわれは九十路入りてもなほ色香

若杉

季無しの句である。しかし、春は動物たちの恋の季節。猫の恋、鳥交などの季語がある。燠風では、花嫁、花嫁は春の季語とされていた。九十路の言とあれば尚愉快。

雛の夜や洋酒で祝ふ若夫婦

南山

作者の身近な若夫婦であろうか。はたまた、「自身の新婚当時を振り返ることであろうか。酒は過ぎれば害となるが量をわきますれば人生を楽しくしてくれる。若夫婦の今宵の酒はどんな香りを醸し出してくれるのだろうか。

あけぼのや多摩霊園の初桜

紅杓

武蔵野の公園墓地である。四季を彩る植物が霊園を明るくしてくれる。ここには、三島由紀夫や与謝野晶子など多数の著名人が眠っているの、彼らに想いを馳せながら散歩するのも楽しそう。

四季折々

戸部 守

以下に四つの設問をします。興味のある方はお答えください。

問一 四季を色でいうと春は青、夏は赤、冬は黒です。では秋は何色ですか？

問二 「せりなづなごきやうはこべらほとけのざすなすしろ春の七草」という短歌があります。「すしろ」とはなに？

問三 「きつづきのとぶや小やぶと軒つづき」この句を回文と言います。回文とは？

問四 私は常磐線で上京します。常磐線の「磐」を「盤」としてはなぜだめですか？

問五 「きつづきのとぶや小やぶと軒つづき」この句を回文と言います。回文とは？

問六 私は常磐線で上京します。常磐線の「磐」を「盤」としてはなぜだめですか？

問七 「きつづきのとぶや小やぶと軒つづき」この句を回文と言います。回文とは？

問八 私は常磐線で上京します。常磐線の「磐」を「盤」としてはなぜだめですか？

問九 「きつづきのとぶや小やぶと軒つづき」この句を回文と言います。回文とは？

問十 私は常磐線で上京します。常磐線の「磐」を「盤」としてはなぜだめですか？

問十一 「きつづきのとぶや小やぶと軒つづき」この句を回文と言います。回文とは？

問十二 私は常磐線で上京します。常磐線の「磐」を「盤」としてはなぜだめですか？

問十三 「きつづきのとぶや小やぶと軒つづき」この句を回文と言います。回文とは？

問十四 私は常磐線で上京します。常磐線の「磐」を「盤」としてはなぜだめですか？

問十五 「きつづきのとぶや小やぶと軒つづき」この句を回文と言います。回文とは？

問十六 私は常磐線で上京します。常磐線の「磐」を「盤」としてはなぜだめですか？

問十七 「きつづきのとぶや小やぶと軒つづき」この句を回文と言います。回文とは？

問十八 私は常磐線で上京します。常磐線の「磐」を「盤」としてはなぜだめですか？

問十九 「きつづきのとぶや小やぶと軒つづき」この句を回文と言います。回文とは？

問二十 私は常磐線で上京します。常磐線の「磐」を「盤」としてはなぜだめですか？

カホ会 通信

◆3月度の理事会から

本年は「日中平和友好条約締結40周年」にあたり、北京大学でも日中関係や華人・華僑を研究している教授らが「日中残留孤児オーラル・ヒストリー研究プロジェクト」を立ち上げたとのことで、当協会にも協力要請があった。日中平和友好の重要性を世代から世代へと未来に繋いでいくのが目的とのこと。協力の具体的な内容はこれからとのことであるが、高齢化の波はこの分野にも押し寄せており、当協会が持つ資料等がお役に立つのではないかなど活発な意見が交わされた。

◆「近現代史講座」

6月1日であったん終了

2016年12月に第1回目を開始したこの講座は、今月の3月2日で14回目を迎えた。早稲田大学の大日方純夫教授の熱心な指導の下、毎回の様に長い人生経験に基づく難しい質問で先生を悩ませた講座であったが、残りは6月の1回となった。(以下表2へ)

◆会館ビル共用部分のリフォーム進行中

これまで、会館の照明LED化や5階会議室の机、椅子のリニューアルなどで快適性のアップも図ってきたが、本年2月以降経年変化に伴う改修として、テナントフロアのトイレリフォーム、階段、踊り場、手すり、エレベーター前の床の張り替え、5階奥の部屋のリフォーム化など工事を進めている。

会員だより

◎計報

阿部正氏(94歳)
平成29年10月30日逝去
謹んで哀悼の意を表します

同好会だより

＜一石会＞
3月囲碁例会優勝 遠藤文夫氏
＜謡曲会＞
5月29日例会 実施予定曲目

曲目	役割	地頭
小袖置我	シテ宮下 母 堀野 五郎 鶴川	堀野
善知鳥	シテ村瀬 ツレ宮下 ワキ土屋	鶴川
雲雀山	シテ鶴川 子方 澤村 後ワキ土屋 堀野	堀野

みんなの写真館

江戸城の天守閣(表紙)

江戸城の天守閣は、明暦3年(1657年)江戸大火で焼失したまま天守閣だけは再建されず現在まで石垣だけになって残っていた。江戸城本丸は江戸幕府の中心であったばかりでなく、明治天皇が京都から遷都して、皇居と名づけて君臨する近代の牙城になってからも、石垣だけのままであった。平成になって一般に開放されて自由になれることが出来るので、太田道灌時代から大東京へと膨張する魔都を見つめ直すには、絶好の歴史探求の磁場となっている。(石飛仁)

ムラサキハナナ(表4下)

通称「花なだいこん」、中国名、諸葛菜は前回の東京オリンピックのころから全国に急激に広まったが、元は、戦中、戦後に、大陸から日本にもち帰られたもの。南は揚子江沿岸から北は満洲まで、そのルートと、種を持ってきた5人の人々の人生を40年にわたって追いかけた本『紫の花伝書』集広舎刊を御覧ください。

陸軍衛生材料廠所長、満洲女塾の女教師、植物好きの満鉄総裁、牧野植物同好会会員、戦後日本に亡命した満洲国実業部大臣などなど。春分の日に思わぬ雪が降った東京にて。(写真・細川はぎの、文・細川呉港)

2018年5月の行事予定

- 2日(水) 10:30 俳句会(吟行) 旧芝離宮恩賜庭園入口集合
投句の場合は兼題「著我、川」及び当季雑詠
- 10日(木) 14:00 ○公開フォーラム
「現下の国際関係―共通の接点を失いつつある各国の国内事情との関連で」
瀬戸岡紘氏(駒澤大学名誉教授)
- 11日(金) 11:00 一石会囲碁例会
- 15日(火) 14:00 謡曲会(松木先生稽古日)
- 22日(火) 14:00 謡曲会(松木先生稽古日)
- 24日(木) 14:30 第7回定時社員総会(総会後、懇親会開催)
- 29日(火) 13:00 謡曲会例会
- 31日(木) 14:00 ○公開フォーラム
「日本海横断航路―対ロシア直結へのとりくみ」
三橋郁雄氏(元運輸省第一港湾建設局長、現NPO北東アジア輸送回廊ネットワーク副会長)

5月の会議予定

- | | | | |
|--------------|---------|--------------|----------|
| 7日(月) 14:00 | 環境委員会 | 24日(木) 13:30 | 理事会(第2回) |
| 8日(火) 14:00 | 国際交流委員会 | | |
| 10日(木) 15:30 | 講演委員会 | | |
| 〃 15:30 | 広報委員会 | | |

※会員外一般聴講者の参加費は、◎印:1000円、○印:500円、無印:無料です。

※下線は通常日程に変更あり

みんなの 写真館

